

TR-I-0077

形態素情報利用解説書
(兼作業マニュアル)

User's Manual for Morpheme Information

篠崎 直子, 水野 康子,* 小倉 健太郎, 吉本 啓
Naoko SHINOZAKI, Yasuko MIZUNO, Kentaro OGURA, Kei YOSIMOTO

1989.3

概要

現在ATR自動翻訳電話研究所では、電話会話などのオリジナルテキストに対して「形態素情報」「格・係り受け情報」「日英対訳対応情報」の3つの付加情報を与え、各種言語現象の分析を可能とする言語データベースの作成を進めているが[1][2][3]、その際、形態素情報は他の2情報の基準となる基礎情報ともいえる。

しかし、形態素情報は形態素分割・品詞付けともに多くの解釈が存在し、一意に決定できない曖昧性のある語や、境界線上の語の扱いが問題となる。また、口語を対象データとしているために、従来の解釈ではカバーできない部分もある。

本稿では、「①形態素解析・修正作業の際の曖昧性の解消」「②データ分析作業の際の客観性の保証」を目的として設定したATR自動翻訳電話研究所における形態素情報の認定基準について述べる。

*Osaka University of Foreign Studies

大阪外国語大学

ATR Interpreting Telephony Research Laboratories

ATR 自動翻訳電話研究所

はじめに

1987年4月に言語データベース構築のために形態素解析・修正作業を開始した際には『吉本「日本語品詞の分類」^[4]を基本方針とし、これにあがっていない個々の形態素については「三省堂 新明解辞書 第二版」(以後「新明解」)の見出し語・派生語を基準とすること』とした。このとき補足用辞書として新明解を選択したのは形態素解析プログラムが辞書として新明解を使うことになっていたからである。(そして形態素解析プログラムが辞書として新明解を使うことになっていたのには当時電子化されていた辞書が数少なかったという事情がある。)

しかし、データの蓄積が進むにつれ、両者の差異による矛盾や本来人間用辞書である新明解自身の矛盾、ある意味での文法記述の不備などが無視できない大きな問題となってきたのである。

そのため1988年8月に、新たに文法記述参照用として「学研 国語大辞典 第二版」(以後「学研」)を導入すると共に、それまでの問題点を整理し、形態素解析・修正作業へのフィードバックを進めた。その後半年以上が経過したが、運用は順調に軌道に乗りつつあり、認定規則はほぼ固まっている。

このマニュアルは、形態素解析・修正作業の際に発生した形態素分割・品詞付けに関する問題点に吉本・水野が対応した記録を篠崎が整理したものである。形態素プログラムへの影響については小倉が検討した。また吉本は最終原稿のチェックも行った。

このマニュアルはもともとボトムアップに作ったので、全体像をつかみにくいという難点があるかもしれない。それを軽減するために、ここでは

- (1)品詞別基本方針
- (2)各章の構成
- (3)例示のフォーマット
- (4)その他記号

の4項目を(トップダウンに)述べることにする。

(1)品詞別基本方針

- 1.名詞: 【1.1固有名詞、1.2サ変名詞、1.3形容名詞、1.4普通名詞、1.5数詞、1.6代名詞、1.7名詞その他】

固有名詞、サ変名詞は長単位分割とし、それ以外に関してはできる限り短単位分割とする。最小単位の判断基準としては基本的には新明解を使用しているが、接頭辞・接尾辞を含むものは学研で確認のうえ(更に)分割する。

- 2.動詞: 【2-1.本動詞、2-2.補助動詞、2-3動詞その他】

尊敬表現に関して、独立した判断基準をたてている。動詞の最小単位の判断基準も新明解見出し語としているが、助動詞を含めた形で見出し語となっているものについては辞書記述を採用せず分割する。

- 3.形容詞: 補助形容詞は補助動詞に含めている。辞書内の不統一によるデータのばらつきを抑えるため、一部学研を参考に行っているが、基本的には新明解を基準とする。
- 4.副詞: 副詞には名詞との境界が曖昧だという問題があるが、ここではその判断の基準を新明解におくこととしている。ただ新明解には副詞の扱いが不統一な部分があるので、頻出する副詞のパターンをマニュアルで提示し、切り方を統一している。
- 5.連体詞: 「こう、そう、ああ、どう」のつくものは扱いを一本化しているが、それ以外に関しては、判断の基準を新明解におくことにしている。
- 6.接続詞: 不規則な形がよく現れるので、よく出てくるタイプ別に例をのせ、統一的に扱えるよう方針を示している。
- 7.間投詞: (特になし)
- 8.感動詞: 従来の感動詞にとりこぼしや不統一がないかをチェックしている。特に電話会話で種々の感動詞が予想されたため、感動詞の認定基準についてコメントを記している。
- 9.助動詞: 文法的機能語である助動詞に関しては、助詞と同じく、数を限り列挙している。それら以外は原則として助動詞とは認めない。よって、新明解の解釈は採用しない。
- 10.助詞: 【10-1.格助詞、10-2 準体助詞、10-3 係助詞、10-4 副助詞、10-5 並立助詞、10-6 接続助詞、10.7 終助詞、10.8.助詞その他】
文法的機能語である助詞に関しては、助動詞と同じく、数を限り列挙している。それら以外は原則として助詞とは認めない。よって、新明解の解釈は採用しない。

(助動詞、助詞にとりこぼしが出てきた場合は、学研等を参考にし、「できる限り追加を回避する方向で検討する」のを基本方針とする。最終的な決定はATR担当者がする。)

- 11.接頭辞: 接尾辞と共に学研を基準とする。これを含む時は、新明解で見出し語となってもできる限り分割することにする。
- 12.接尾辞: 接頭辞と共に学研を基準とする。これを含む時は、新明解で見出し語となってもできる限り分割することにする。

(2)各章の構成

各章とも、最初の扉は品詞名と『認定基準』(吉本「日本語品詞の分類」よりの引用)をあげている。次ページも最初は吉本「日本語品詞の分類」の引用である『例』をあげ、その後各論とする。(吉本「日本語品詞の分類」の引用の部分は大きなフォントで区別できるようにしている。原則として、引用の部分は手を加えていないが、例などで追加・削除の変更を加えたときは本文中にそのことを明記している。)

また、『従来との相違点』(1988年以前のデータとの相違点)『解説』(決定項目の理由など)『参考』(比較データ・他の解釈など)は枠で囲んで地の文と区別した。

なお、本文中で用いている品詞とその略語の対応は以下の通りである。

品詞(大分類)	略語	品詞(小分類)	略語
名詞	名詞	固有名詞 サ変名詞 形容名詞 普通名詞 数詞 代名詞	固名 サ名 形名 普名 数詞 代名
動詞	動詞	本動詞 補助動詞	本動 補助
形容詞	形容		
副詞	副詞		
連体詞	連体		
接続詞	接続		
間投詞	間投		
感動詞	感動		
助動詞	助動		
助詞	助詞	格助詞 準体助詞 係助詞 副助詞 並立助詞 接続助詞 終助詞	格助 準助 係助 副助 並助 接助 終助
接頭辞	接頭		
接尾辞	接尾		

(3)例示のフォーマット

本文中の例の書き方は次の2通りがある。

①品詞・読み・正規表現など全体が問題となっているときは、『データ、読み、正規表現、品詞、活用型、活用形』のすべてをこの順に列挙する。また、もしあれば『音便、コメント』についてもあげる。当然、このタイプの例では形態素は縦に並ぶことになる。

eg. これから何をされますか。 → さ さ する 本動 サ変 未然
れ れ れる 助動 ー 連用

②品詞・活用形など一部が問題となっているときは、形態素分割を「/」で区切り、必要な部分だけを書き添える。このタイプの例では形態素は横に並ぶことになる。

eg. 500円になります。 → なり / ます
本動 助動

(4)その他記号

[] は漢字表記を示している。そのうち最初のものが正規表現である。
[] や () については索引の扉を参照頂きたい。

最後に、このマニュアル作成をご指導下さったATR自動翻訳電話研究所 樽松明社長、データ処理研究室 森元 暉 室長に感謝します。また、熱心に討論して下さいましたデータ処理研究室および株式会社東洋情報システムの諸氏に感謝致します。

参考文献

- [1] 森元・小倉・飯田：
「自動翻訳電話研究用言語データベースの収集について」、
情報処理学会第36回全国大会4U-5、1988
- [2] 小倉・篠崎・森元：
「言語データベース収集支援システム」、
情報処理学会第36回全国大会4U-4、1988
- [3] 篠崎・小倉・森元：
「言語データベースの品質管理」、
情報処理学会第36回全国大会4U-3、1988
- [4] 吉本：
「日本語品詞の分類」、
TR-I-0008 <ATRテクニカルレポート>

目次

1.名詞	1(名詞)
1.1固有名詞	2(名詞)
(1)固有名詞とラベルづけするのは…	2(名詞)
(2)中国の人名、地名など「外国語の漢字」の読みは?	2(名詞)
(3)年号について	3(名詞)
1.2サ変名詞	4(名詞)
(1)サ変名詞とラベルづけするのは…	4(名詞)
1.3形容名詞	6(名詞)
(1)形容名詞とラベルづけするのは…	6(名詞)
(2)的がついたら…	6(名詞)
(3)タルト型形容名詞	7(名詞)
1.4普通名詞	8(名詞)
(1)普通名詞を切る時	8(名詞)
1.5数詞	9(名詞)
(1)数量表現が出てきたら…	9(名詞)
(2)単位が出てきたら…	10(名詞)
(3)度量衡の単位が出てきたら…	10(名詞)
(4)数字の読み方	10(名詞)
1.6代名詞	12(名詞)
1.7名詞その他	13(名詞)
(1)住所が出てきたら…	13(名詞)
(2)英語のフレーズが出てきたら…	14(名詞)
(3)名詞と副詞の問題点: 辞書によって品詞付けが異なる	14(名詞)
(4)転成名詞	15(名詞)
(5)複合名詞	16(名詞)
2.動詞	17(動詞)
2-1.本動詞	18(動詞)
(1)不規則な活用	18(動詞)
(2)「行われる」について	19(動詞)
(3)「される」について	19(動詞)
(4)抽象性の高い動詞	19(動詞)
(5)可能動詞について	20(動詞)
(6)複合動詞について	20(動詞)
2-2.補助動詞	21(動詞)
(1)補助動詞の条件	
(吉本「日本語品詞の分類」(前頁枠内)に補足して)	22(動詞)
(2)補助動詞の例	
(吉本「日本語品詞の分類」(前頁枠内)に補足して)	22(動詞)
(3)補助動詞「する」について	22(動詞)
(4)補助動詞「なさる」について	23(動詞)
(5)補助動詞とまぎらわしい例	23(動詞)

2.3 動詞その他	24(動詞)
(1)尊敬表現(接頭辞のつくタイプ)	
— 尊敬表現の規則は他の規則より優先する —	24(動詞)
(2)本動詞と補助動詞の境界は?	27(動詞)
3.形容詞	30(形容)
3.形容詞	31(形容)
(1)形容詞っぽいものについて	32(形容)
(2)「申し訳ない」について	33(形容)
(3)不規則な活用(形容詞の語幹形)	33(形容)
4.副詞	34(副詞)
4.副詞	35(副詞)
(1)副詞の環境	35(副詞)
(2)辞書にない副詞	35(副詞)
(3)「また(又)」	37(副詞)
5.連体詞	38(連体)
5.連体詞	39(連体)
(1)連体修飾にならない連体詞	39(連体)
(2)辞書にない連体詞	39(連体)
(3)連体詞だよ	41(連体)
6.接続詞	42(接続)
6.接続詞	43(接続)
(1)接続詞の省略形、丁寧形	43(接続)
(2)辞書にない接続詞	44(接続)
7.間投詞	45(間投)
7.間投詞	46(間投)
8.感動詞	47(感動)
8.感動詞	48(感動)
(1)感動詞の独立性について	48(感動)
(2)辞書にない感動詞	48(感動)
(3)同形異品詞	49(感動)
9.助動詞	50(助動)
9.助動詞	51(助動)
(1)助動詞「ない」と形容詞「ない」	52(助動)
(2)助動詞「ようだ」	53(助動)
(3)「だ」「で(ある)」「で(ございます)」	53(助動)
(4)3つの「で」	53(助動)
(5)助動詞「た、だ」の仮定形	54(助動)
(6)文語の助動詞	55(助動)
(7)「せる、させる」「す、さす」	55(助動)

10.助詞	57(助詞)
10-1.格助詞	58(助詞)
(1)複合格助詞(長い格助詞)に関して	58(助詞)
(2)格助詞です	60(助詞)
10-2 準体助詞	61(助詞)
(1)準体助詞に関して	61(助詞)
10-3 係助詞	62(助詞)
10-4 副助詞	63(助詞)
(1)「くらい」、「ぐらい」	63(助詞)
(2)副助詞「か」	63(助詞)
(3)新しい副助詞——「なんか」「ごと/(に)」	64(助詞)
(4)切るかどうか	65(助詞)
10-5 並立助詞	66(助詞)
(1)並立助詞に関して	66(助詞)
(1)「ながら」	67(助詞)
10-6 接続助詞	67(助詞)
(2)「じゃ」	67(助詞)
10.7 終助詞	68(助詞)
(1)終助詞に関して	68(助詞)
10.8.助詞その他	69(助詞)
(1)形式名詞「もの」+*	69(助詞)
(2)「ては」	69(助詞)
(3)助詞の正規表現	69(助詞)
11.接頭辞	70(接頭)
11.接頭辞	71(接頭)
(1)接頭辞の例	71(接頭)
(2)接頭辞でない例	71(接頭)
(3)辞書	72(接頭)
12.接尾辞	73(接尾)
12.接尾辞	74(接尾)
(1)活用する接尾辞	74(接尾)
(2)「しだい」	75(接尾)
(3)「さ」	76(接尾)
(4)数量表現が出てきたら…	76(接尾)
(5)接尾辞の例	77(接尾)
(6)接尾辞でない例	77(接尾)
13.其の他	78(其他)
13.その他	79(其他)
(1)読みの欄について	79(其他)
(2)正規表現の欄の表記	79(其他)
(3)異形態について	81(其他)
(4)活用型の欄について	82(其他)
(5)疑問詞の扱い	83(其他)

(6)記号について	84(其他)
(7)語幹の扱い	85(其他)
(8)文語の扱い	85(其他)
(9)「こ、そ、あ、ど」のつく語の扱い	85(其他)
(10)比較的複雑な解析例	86(其他)
(11)2冊の辞書	87(其他)
☆付録1 <補助動詞の洗い出し>	89(付1)
☆付録2 <助詞の整理>	96(付2)
☆付録3 <活用表>	110(付3)
☆付録4 <文節単位について>	121(付4)
A4.1 文節とは何か?	121(付4)
A4.2 文節プログラムの出力と修正	122(付4)
A4.3 文節プログラムの出力を修正するもの	123(付4)
A4.3.1 複数の文節になっているものを1つにまとめるもの。	123(付4)
A4.3.2 1つの文節になっているものを2つ以上に分割するもの。	128(付4)

1.名詞

認定基準

自立語。活用しない。格助詞「ガ」を付けて文の主語になる。

1.1 固有名詞

指示対象が1つだけの名詞。典型的には地名及び人名。

(例) 大阪、森鷗外、源氏物語、ATR、自動翻訳電話研究所。

(1) 固有名詞とラベルづけするのは…

固有名詞とは「人名」「国名」など「…名」といえる名詞のことである。また、世界中にさすものが1つしかなかったら、それは固有名詞である。(ただし、固有名詞だから世界中に一つしかない、とっているのではない。例えば「ヒルトンホテル」は世界中にいくつもある。)

「人名」山田太郎、松田聖子、ポプ・ラッツ

「国名」ソ連、西ドイツ

「役職名」データ通信部長

等々 etc..

他に、「西洋」「西欧」「欧州」「アフリカ」「ヨーロッパ」「アジア」も固有名詞である。また、本の名前は一つで固有名詞、章・社説名は普通名詞扱いで短単位分割とする。

それから、固有名詞は長単位分割を基本とする。(まとめて1つの固有名詞になるものは長単位分割をする。)こまかく切るのは、住所の場合のみであり(参考:1.名詞の1.7(1))、また、会社名、部課名、役職名がつらなってある次のような場合はそれぞれ「…名」の単位で切る。

eg. 日立製作所中央研究室第三システム部第四研究所

→ 日立製作所 / 中央研究室 / 第三システム部 / 第四研究所
固名 固名 固名 固名

ただし、[(株)]は記号扱いする。

eg. (株)日本交通公社 → (株) 日本交通公社 記号
日本交通公社 にはんこうつうこうしゃ 日本交通公社 固名

(2) 中国の人名、地名など「外国語の漢字」の読みは?

◆ 人名 原文に読みが添えてある場合 → 原音読み(カタカナ表記)

eg. 胡耀邦 → 胡耀邦 フー・ヤオハン 胡耀邦 固名

原文に読みが添えてない場合 → 日本語の漢字音読み(カタカナ表記)

eg. 胡耀邦 → 胡耀邦 コヨウホウ 胡耀邦 固名

◆ 地名 習慣的な原音読み → カタカナ表記

eg. 香港 → 香港 ホンコン 香港 固名 * 「香港」は日本語の漢字音読みでは「ほんこん」と読めない。

日本語の漢字音読み → ひらがな表記

eg. 中国 → 中国 ちゅうごく 中国 固名

(3)年号について

eg. 昭和63年 → 昭和 / 63 / 年
固名 数詞 接尾

cf. 昭和の初年 → 昭和
固名

1.2 サ変名詞

「スル」をつけてサ変動詞となるもの。いわゆるサ変動詞自体はサ変名詞プラス補助動詞「スル」とする。

(1) サ変名詞とラベルづけするのは…

文中において補助動詞 {する、[文]す、致す、なさる、できる} の前に現れる名詞。(参考:2.動詞の2.2(3))

なお、このときサ変名詞は辞書によらず長単位でとり、「来日」「来阪」「訪中」「銀行振り込み」「タイプ打ち」「大阪入り」などは全て1つのサ変名詞とする。

eg. fax致します	→	fax	/	致し	/	ます
		サ名		補動		助動
私でも <u>参加</u> できますでしょうか。	→	参加	/	でき	/	ます
		サ名		補動		助動
全員 <u>参加</u> すべきだ。	→	参加	/	す	/	べき
		サ名		補動		助動
<u>タイプ打ち</u> しておいてください。	→	タイプ打ち	/	し		
		サ名		補動		
詳しい事を <u>打合せ</u> したいと	→	打合せ	/	し		
		サ名		補動		

ただし、サ変名詞+補助動詞に分割せず、動詞(活用型=サ変)と認めるものもある。それに関しては、2.動詞の(注1)を参照のこと。

また、尊敬表現で「ご」のつくパターンของときも原則として「ご」のあとはサ変名詞とする。(参考:2.動詞の2.3(1))

e.g. <u>ご案内</u> いたします	→	案内		
		サ名		
例外: <u>ご案内</u> なさる	→	案内		動詞・連用

*従来との相違点

☆サ変名詞につく補助動詞として、「す」や「できる」はあげていなかった。

☆新明解に「…する」と但し書がなければ、サ変名詞には認めていなかった。

*解説1

☆「できる」には

{サ変動詞の語幹の下につけて接尾語的に用い;しうる} (学研)

という用法がある。ここで、サ変動詞の語幹とは、ATRではサ変名詞にあたる。

☆「す」は「する」の文語である。

*解説2

☆例えば「電話する」の場合、「電話」には「…する」とないので、

電話する → 電話 / する
 普名 本動

となっていたが、今後以下のように解析する。

電話する → 電話 / する
 サ名 補動

ただし、

電話をする → 電話 / を / する
 普名 格助 本動

また、辞書見出し語の有無で

来日する → 来日 / する
 サ名 補動

来阪する → 来 / 阪 / する
 接頭 固名 本動

という違いがあったが、今後いずれも「サ変名詞+補助動詞」とすることになる。

1.3 形容名詞

「ダ」「タル」「デス」をつけて形容動詞となりうる名詞。いわゆる形容動詞は形容名詞プラス助動詞「ダ」とする。

(1)形容名詞とラベルづけするのは…

文中に形容名詞+助動詞(だ、です、と)の形で現れるもの。

eg. わあ、綺麗な人 → 綺麗 / (な)
形名 助動・連体

cf. いろいろアレンジしてさしあげるとか。 → いろいろ
普名

ただし「同じだ」は学校文法でいうところの形容動詞であるが、体言に続くときには語幹「同じ」が使われ、連体形「同じな」は「同じ/な/の/に」、「同じ/な/の/で」のような場合にのみ用いられる。故に「同じ」に体言が続いていれば、普通名詞ではなく形容名詞とする。

eg. 同じアレンジではだめだ。 → 同じ
形名・語幹

また、形容名詞+助動詞と名詞+助動詞の見分け方は3.形容詞の(注)を参照すること。

(2)的がついたら…

「的」がつくものは、以下のように切り方を統一することにする。

eg. 時間的に → 時間的 / (に)
形名 助動「だ」連用
 自動的に → 自動的 / (に)
形名 助動「だ」連用
 総括的な → 総括的 / (な)
形名 助動「だ」連体

ただし、うしろに助動詞の活用が続かなければ次のように切る。

eg. 時間的経緯 → 時間 / 的 / 経緯
普名 尾 普名

*従来との相違点

☆従来は「○○的」が新明解の派生語にあげられているかどうかで、下のよう
 にしていた。

◆派生語となっている場合 自動的に → 自動的 / に
形名 助動・連用

◆派生語となっていない場合 専門的な → 専門 / 的 / な
(「な」がつづく時) 普名 接尾 助動・連体
 時間的に → 時間 / 的 / に
(「に」がつづく時) 普名 接尾 格助

*解説

☆ここで、普名/接尾/助動でそろえなかったのは、普通名詞と接尾辞に分けても意味があまりない、つまり、その名詞が独立した名詞としての機能をあまり持たない例がみられるからである。(例えば「多面的な」の「多面」は「多面の」とか「多面が」とかいう風にはいわない。)ただ、分けても意味のあるものも多くあり、そういうものが「的」と一緒に現れなかった場合には、普通名詞やサ変名詞でありうるわけで、形容名詞という範疇にとられる必要はない。ここで述べたのはあくまで「的」がついた場合の話である。(「～化」「～上」などは切る。)

(3)タルト型形容名詞

これは文語の名残なので次のように解析する。

文中に形容名詞+助動詞(だ、です、と)の形で現れるもの。

eg. 堂々たる → 堂々 どうどう 堂堂 形名
 たる たる と 助動・連体

堂々と → 堂々 どうどう 堂堂 形名
 と と と 助動・連用

*従来との相違

☆従来は

堂々たる → 堂々 どうどう 堂堂 形名
 たる たる たる 助動・連体

堂々と → 堂々 どうどう 堂堂 形名
 と と と 助動・連用

となっていた。

*解説

☆正規表現は活用語の場合、終止形をいれているが、検索しやすいようにひとつにそろってさえいれば必ずしも終止形でなくてもよい。「と」は終止形ではないし、これが文語の名残であるという性格上、タルト型形容名詞につく助動詞は十中八九「と」と「たり」しかでてこないと予想して、正規表現に「と」を使用する。

*注意

☆タルト型形容名詞と認められるのは「…たる」と接続できるものである。(cf.ダナニ型形容名詞と認められるのは「…な」と接続できるものである。)故に、「くつきり」等は「…と」としか結びつかないので、副詞+格助詞と解析する。

参考:新明解中の表記は次のようになっている。

堂々たる/と
くつきり(副)とする

1.4 普通名詞

広義には、同一種類の事物に通じて用いられる名称。
狭義には、そのうち「サ変名詞」「形容名詞」を除いたもの。
ここでは狭義の意味で用いる。

(1) 普通名詞を切る時

名詞は意味を保つ限り小さく切る。

固有名詞及びサ変名詞に限り長単位分割をするが、普通名詞の場合は(ひとまとめで名詞になるようなものは)切る方向で考え、その際の認定基準は新明解辞書見出し語とする。(派生語は採用しない。)

細かくする方向で考えるので派生語は無視し、切ったあとの接頭・接尾の判断は学研による。

eg. 日本人	→	日本	/	人
		固名		接尾
日本語	→	日本	/	語
		固名		接尾
夕張メロン	→	夕張	/	メロン
		固名		普名

1.5 数詞

数や量、または順序を表す名詞。

(例)一、三ツ、五匹、六時、八番。

「ツ」「匹」「時」「番」といった接尾辞(助数辞と呼ぶ)を伴って表れることが多い。例えば、「八番」については、八=数詞、番=助数辞、というラベル付けをする。「五千六百二十」のような例は全体で一つの数詞とする。「二十(はたち)」、「一日(ついたち)」など分けられないものについては全体で数詞として扱う。

(1)数量表現が出てきたら…

数量表現には次の2通りがある。

- 1.数詞+接尾辞
- 2.接頭辞+*+接尾辞

ただし、これは数量表現に限った規則である。「何」や「いく」は名詞及びそれに準ずる語につくときは接頭辞となるが、その他のときは接頭辞ではない。

(参考:13.その他(2))

eg.	1988年9月1日	→	1988/	年	/	9月	/	1日	
			数詞	接尾		普名		普名	
	三万円	→	三万	/	円				
			数詞		接尾				
	数十年	→	数	/	十	/	年		
			接頭		数詞		接尾		
	数日前	→	数	/	日	/	前		
			接頭		接尾		普名		
	何年	→	何	/	年				
			接頭		接尾				
	百数十	→	百	/	数	/	十		
			数詞		接頭		数詞		
cf.	何か用?	→	何						
			代名						
	昭和63年	→	昭和	/	63	/	年		
			固名		数詞		接尾		(参:1.名詞の1.1(3))

数量表現ではこの規則に従い、新明解のエントリーは無視する。

eg.	一箇月	→	一	/	箇	/	月	
			数詞		接尾		接尾	
	一箇所	→	一	/	箇	/	所	
			数詞		接尾		接尾	
	一時間	→	一	/	時間			
			数詞		接尾			
	一週間	→	一	/	週	/	間	
			数詞		接尾		接尾	
	一年間	→	一	/	年	/	間	
			数詞		接尾		接尾	

以下のような場合に注意する(これらは数量表現ではない)

eg. ひとつよろしく願います。 → 一つ
副詞

(2)単位が出てきたら…

数詞の前にくる時は記号とする。

eg. us\$100 → us\$ / 100
記号 数詞
¥100 → ¥ / 100
記号 数詞

数詞の後ろにくる時は接尾辞とする。

eg. 100アメリカドル → 100 / アメリカドル
数詞 接尾
100円 → 100 / 円
数詞 接尾

単独で用いられる時は接頭辞/接尾辞とはしない。

eg. アメリカドル → アメリカ / ドル
固名 普名
日本円 → 日本 / 円
固名 普名
usドルで100ドル → usドル
普名 (切らないのはusはドル以外とは結び付かないから)

(3)度量衡の単位が出てきたら…

記号の形で現れているもの

eg. 1cm → 1 / cm
数詞 記号

カナ表記のもの

eg. 1キログラム → 1 / キログラム
数詞 接尾

(4)数字の読み方

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
①漢語	れい	いち	ふた	さん	し	ご	ろく	しち	はち	きゅう	じゅう
②和語		ひ	ふ	み	よ(み)	いつ	む	なな	や	ここの	とお
③欧米語	ゼロ										
④その他	まる										

(注) 「5・2」は「ごお・にい」とも読むが、それはリズムをまわりの数字に合わせるため母音をのばしているだけなので、表記は「ご・に」に統一する。

(a)番号の場合

◆電話番号(0は③、他は斜線部)

eg. 03-561-2092	→	03	ゼロさん	03	数詞
		-			記号
		561	ごろくいち	561	数詞
		-			記号
		2092	にゼロきゅうに	2092	数詞

◆郵便番号(斜線部)

eg. 530	→	530	ごさんれい	530	数詞
---------	---	-----	-------	-----	----

◆部屋番号

◆2ケタ以下なら普通に数字よみする。(斜線部)

eg. 11号室	→	11	じゅういち	11	数詞
		号	ごう	号	接尾
		室	しつ	室	普名

◆3ケタ以上なら一桁ずつ別々に読む。(0は④、他は斜線部)

eg. 506号	→	506	ごまるろく	506	数詞
		号	ごう	号	接尾

(b)全体で名詞を構成する場合や接尾辞を伴う場合

(①、②、③いずれも、又、つまった形等をもとめる。)

eg. 七五三	→	七五三	しちごさん	七五三	普名
		四月	しがつ	四月	普名
		9時	く	9	数詞
			じ	時	接尾
		6つ	むっ	6	数詞
			っ	っ	接尾

1.6 代名詞

名称を直接言わずに、「指示」を行う語。話し手・書き手および聞き手・読み手の存在する場によって、指示する対象が異なる。

(例) ワタシ、キミ、自分、コレ/ソレ/アレ/ドレ、
ココ/ソコ/アソコ/ドコ、コチラ/ソチラ/アチラ/ドチラ。

1.7 名詞その他

(1)住所が出てきたら...

固有名詞は原則として長単位分割とし、全体を一つの固有名詞とするが、住所は

「1.長くなりすぎること」

「2.都道府縣市町村など、ある程度の構成ルールがあること」

から原則として切ることにする。

(a)日本の住所は切る。

eg. 大阪市東区一丁目二番地	→	大阪市	/	東区	/	一	/	丁目	/	二	/	番地		
		固名		固名		数詞		接尾		数詞		接尾		
大阪市東区一丁二番	→	大阪市	/	東区	/	一	/	丁	/	二	/	番		
		固名		固名		数詞		接尾		数詞		接尾		
大阪市東区1の2の3	→	大阪市	/	東区	/	1	/	の	/	2	/	の	/	3
		固名		固名		数詞		格助		数詞		格助		数詞

*従来との相違

☆従来は

大阪	/	市	/	東	/	区	/	一	/	丁目	/	二	/	番地
固名		普名		固名		普名		数詞		接尾		数詞		接尾

や

大阪	/	市	/	東	/	区	/	茶屋町
固名		普名		固名		普名		固名

と解析していた。

*解説

☆このようにすれば、

東京駅	→	東京駅
		固名

等との切り方と足並みが揃う。(参考:1.名詞の1.1(1))

(b)外国の住所は日本語表記なら切り、英語表記なら切らない。

◆日本語表記の場合 → 日本の住所の場合に準ずる。

eg. 727、	サウス・ストーン・アヴェニュー、	ラグランジュ、	イリノイ州				
→ 727	、	サウス・ストーン・アヴェニュー	、	ラグランジュ	、	イリノイ州	
数詞	記号	固名		記号	固名	記号	固名

切り方のパターンとしては大体以下の通り

1. Street / Avenue
2. City / Town
3. Area Code (Zip code) / 州名
4. country

◆英語表記の場合 → 一まとめで固有名詞扱い。

eg. Telcom Interpreting H. Q., 10, Downing Street, London W1 4TH, U. K.
→ Telcom Interpreting H. Q., 10, Downing Street, London W1 4TH, U. K.
固名

(2)英語のフレーズが出てきたら…

eg. call for paper	→ call for paper
	名詞
コール.フォー.ペーパー	→ コール.フォー.ペーパー
	名詞
2NDアナウンスメント	→ 2NDアナウンスメント
	普名
ファーストアナウンスメント	→ ファーストアナウンスメント
	普名
最終アナウンスメント	→ 最終 / アナウンスメント
	普名 普名

これらのうち大半は英語のカナ表記として画面に出てくるが、これらカナ文字の連続が出てきたときは、原則として長単位分割をし、品詞は普通名詞または固有名詞とする。但し、

1.単位するとき

2.地名や列挙等あきらかに2つの概念が並んでいると分かる場合

3.日本語をカナ表記したもので名詞でないもの

は原則によらず切るべきところで切り、品詞付けも考える必要がある。(これらはもちろん『英語のフレーズ』ではない。)

eg. <u>フランスドイツ</u> 両国共、	→ フランス / ドイツ
	固名 固名
シンドイ	→ シンドイ
	形容
オイ.コラ	→ オイ / . / コラ
	感動 記号 感動

(3)名詞と副詞の問題点: 辞書によって品詞付けが異なる

(例) それだけ; (新明解)副詞:それだけ君を愛してるのさ。
(学研)名詞:努力すればそれだけの事はある。
;但し副詞的にも使う。

偶然; (新明解)副詞
(学研)名詞.形容名詞、副詞

先ほど; (新明解)副詞
(学研)名詞;副詞的にも使う。

副詞自体定義づけるのが難しい品詞で、名詞と副詞の境界線は非常に曖昧である。ここでは、名詞と副詞の境界線は新明解に従うことにしておく。ただし、疑問詞(英語でいうところの5W1H-疑問文)については意見に統一のとれている学研のほうを基準にして、別扱いとした。よって疑問詞は辞書ではなく[13.その他]の別表を参照のこと。

(4) 転成名詞

動詞の連用形が名詞として使用されるようになった、いわゆる転成名詞の扱いを統一的にするために以下のように取り決めることにする。

(a) {お/ご} + 【1】 (+ 【格助詞】) + 補助動詞 = 基本形1の場合

【1】部にくる(転成)名詞は

接頭辞が「お」の時…動詞・連用形

接頭辞が「ご」の時…サ変名詞

{お/ご} + 【1】 + {だ/です} = 基本形2の場合

【1】部にくる(転成)名詞は

接頭辞が「お」の時…動詞・連用形*

接頭辞が「ご」の時…名詞/形容名詞

eg. …してくれる人がいないかとお尋ねでした → 尋ね
動詞・連用

*ただし、接頭辞を含めた【1】部を修飾する語句が前にきている場合は動詞と認めがたいので、やはり普通名詞(又は形容名詞)とする。このときは構文から外れると考える。

eg. …してくれる人がいないかというお尋ねでした。 → 尋ね
普名

cf. エミリオ・アンバズという人物ですが → 人物
普名

eg. 独占的に使用なさるおつもりであれば → つもり
普名

「基本形1」「基本形2」とともに、詳しくは2.動詞の2.3(1)を参照のこと。

*解説

☆実は、[2.動詞の2.3(1)]で、「{だ/です}の前は名詞的なものを要求する」としながら、解析者間の統一をとりやすくするために、【1】部にくる転成名詞は動詞・連用形とラベルづけを一本化した(現在は接頭辞が何であるかによってより細かく分けている。)経緯がこのような複雑化を招いたのであるが…

(b) 【1】 + 「する」(参考:2.動詞の2.2(3))

【1】部にくる転成名詞はサ変名詞に統一する。

eg. 打ち合せしたいんですが → 打ち合せ / し
サ名 補助

(c) 格助詞の前(ただし、「お/ご…になる」の時は上の規則(a)を適用する。)

eg. 払い戻しをして頂けますでしょうか。 → 払い戻し
普名

冷房では冷えすぎが問題になる。 → 冷えすぎ
普名

(このようにもともと本動詞+補助動詞の組合せの複合動詞が名詞化しているものは名詞+名詞とできるほど、後ろの名詞に名詞としての強さがないのでひとまとめで名詞にする。)

(d)接頭辞のあと

eg. 大はずれ	→ 大	/	はずれ
	接頭		普名
馬鹿あたり	→ 馬鹿	/	あたり
	接頭		普名

(ただし、接頭辞と補助動詞/助動詞に挟まれた場合は上の規則(a)を適用する。)

(e)複合名詞をつくるとき

(考え方; 「動詞の連用形が名詞を修飾するのはおかしい。」)

eg. 家庭ユーザー向けオンラインサービスを	→ 向け
	普名
銀行振込	→ 振込
	普名
cf. 使い方	→ 使い / 方
	動詞・連用 接尾

(f)「ある・ない」の前

eg. 途中から参加されても差し支えありませんので	→ 差し支え
	普名

(5)複合名詞

普通名詞のところにも書いたように、固有名詞・サ変名詞および新明解辞書見出し語をのぞき、(時には新明解辞書見出し語となっていて)形態素は短単位に分割する。短単位分割時の名詞基本単位は新明解見出し語とする。名詞を分割した結果、接頭辞・接尾辞らしいものがでてきたら、それを学研の辞書で確認するという手順をとる。(接頭辞・接尾辞の基本単位は学研による。)

2.動詞

認定基準

自立語。活用する。言い切る形は五十音図のウ段の音で終る。
述語になる。事物の動作、作用、存在を表す。

2-1. 本動詞

補助動詞以外の動詞。

(例) 置く、走る、見ル、アル〔有ル、在ル〕。

(注1) サ変動詞については、前に述べたように、「サ変名詞+補助動詞スル」とする。ただし、「愛スル」「信ズル」など、「…スル→…ハシナイ」の形に言い換えられず、そのため「サ変名詞+補助動詞スル」と認めがたいものについてはサ変動詞とラベルづけする。

(注2) いわゆる可能動詞は五段動詞の語幹に接尾辞 -eru を添えて可能の意味を表すもので、本動詞の一部とする。
(例) 読メル、書ケル、行ケル。

上一段・下一段・カ変の動詞は本来助動詞「ラレル」が添えられて可能の意味を表したが、これらの可能動詞も現在の用法としては認める。

(例、見レル、着レル、来レル)

(1) 不規則な活用

下にあげた動詞(なさる、いらっしゃる、おっしゃる、くださる、ござる、くれる)はいずれも不規則な活用をするので、活用型の欄に「特殊」と入れる。
(参考: 付録3<活用表>)

			従来の扱い
五段特殊1	なさる	なさい(連用と命令)	五段
	いらっしゃる	いらっしゃい(連用と命令)	五段
	おっしゃる	おっしゃい(連用と命令)	五段
	くださる	ください(連用と命令)	特殊
五段特殊2	(ござる)	ござい[ます](連用)	特殊
一段特殊	くれる	くれ(命令)	下一

◆ 「ございます」の活用は助動詞「ます」と同じ

◆ 「いらっしゃる」の連用形には次の形も認められる。

eg. いらしていただけると思いますし → いらし いらし いらっしゃる 本動 特殊 連用
 予定になってらした方 → らし らし いらっしゃる 本動 特殊 連用

(5)可能動詞について

可能動詞はひとまとめで動詞とみる。

e.g. よめる → /よめる/
本動

みれる → /みれる/
本動

*この章の初めの(注2)を参照のこと。

ただし

<u>みられる</u>	→	み	み	見る	本動	上ー	未然
		られる	られる	られる	助動		終止

(参考:9.助動詞(7))

<u>みさせてもらう</u>	→	み	み	見る	本動	上ー	未然
		させ	させ	させる	助動		連用
		て	て	て	接助		

<u>みせてもらう</u>	→	みせ	みせ	見せる	本動	下ー	連用・特殊
		て	て	て	接助		

(6)複合動詞について

複合動詞(v1+v2)がでてきた時には、

① まず新明解で見出し語となっているかどうかを確認する。

そして、

② 見出し語の時は、まとめて(1語で)動詞とする。

見出し語でない時はv1とv2に分け、v2が本動詞か補助動詞かを判断する。

という手順を踏む。

具体的な判断手順については2.3(2)の図2-1『「v1+(て+)v2」におけるv2の判別アルゴリズム』を参照のこと。

2-2. 補助動詞

動詞本来の意味が薄れ、他の動詞に付いて付屬的な意味を表す動詞。以下のように分類できる。

- (1) 「動詞 + テ」「助動詞 + テ」に続くもの。
(例、冷蔵庫ニビールヲ入レテオク)
- (2) 動詞の連用形に続いて意味を添えるもの。
(例、本ヲ読ミハジメル)
- (3) 否定の助動詞などを伴って代動詞として用いられる「スル」。
(例、考エモシナイ)
この場合、動詞以外に、サ変名詞にも後続しうる。
(例、謝罪モシナイ)
- (4) その他様々な形で敬語として用いられるものがある。
(例、オ書キニナル、オ書キナサル)

(1) の例

イル、アル、オク、イク、クル、ミル、クレル、クダサル、ヤル、アゲル、サシアゲル、モラウ、イタダク。

(2) の例

アガル、-アゲル、-オトス、-ツク、-ツケル、-コム、-コメル、-ダス、-デル、-イル、-イレル、-マワル、-マウス、-ワタル、-ワタス、-カカル、-カケル、-カエル、-カエス、アウ、-アワセル。

(以上、方向性に関するもの)

-アガル、-アゲル、-ツケル、-コム、-イル、-カエル、-ハテル、-タツ、-タテル、-キル、-ヌク、-ツクス、-マクル。

(以上、程度の強調に関するもの)

-アヤマル、-ソンジル、-ソコナウ、-ソコネル、-マチガウ、-マチガエル、-チガエル、-チガウ、-オトス、-ワスレル、-ノコス、-アグム、-アグネル、-ソビレル、-シブル、-カネル、-スギル、-スゴス、-タリル、-ウル。

(以上、成否・過不足に関するもの)

-ハジメル、-ダス、-ソメル、-カカル、-カケル、ツツケル、-オワル、-オエル、-アガル、-アゲル、-ヌク、-トオス、-キル、-ナオス、-ツケル、-ナレル。

(以上、アスペクトに関するもの)

(4) の例

オ会イニナル、オ選ビナサル、オ書キクダサル、オ配リスル、オ探シ申シアゲル、オ取リイタダク、オ乗リネガウ、オ会イイタシマス

(1)の「クレル」、(1)(4)の「クダサル」、(4)の「ナサル」の命令形は不規則である。それぞれ、「クレ」「クダサイ」「ナサイ」となる。

(1)補助動詞の条件 (吉本「日本語品詞の分類」(前頁枠内)に補足して)

(1)動詞・助動詞・連用形 + 「て」 + 補助動詞
↑
ここには係助詞「は」がはいりうる。

(2)補助動詞の例 (吉本「日本語品詞の分類」(前頁枠内)に補足して)

◆…となっております。

「…ている」の丁寧な言い方

◆こちらでいろいろアレンジしてさしあげるとか。

「あげる」の丁寧表現

◆おうかがいできますでしょうか。

◆支払っちゃっていいのか。=支払ってしまっていていいのか。

→ ちゃっ ちゃっ ちゃう 補動 五段 連用 つ音便
て て て 接助 無 無 無

(3)補助動詞「する」について

補助動詞「する」とは次のものを指すとする。

1. {動詞連用形に助詞「は」「も」「や」「さえ」等を伴ったものの下につけて} その動詞あるいはその動詞の打ち消しの意味を強める。

eg. 笑いもしない → 笑い / も / し / ない
動詞・連用 係助 補動 助動
考えはしたが → 考え / は / し / た / が
動詞・連用 係助 補動 助動 接助

2. {「お」+動詞連用形の下につけて}謙譲の意味を表わす。

eg. お持ちする → お / 持ち / する
接頭 本動・連用 補動

3. サ変名詞(漢語、動詞連用形転成名詞)についてサ変複合動詞をつくる。

eg. 感謝する → 感謝 / する
サ名 補動

cf1. /涙する/

/論ずる/

(一語の漢語と複合するときは「ずる」と濁るときがある。)これらは一語で本動詞サ変とする。上の「感謝する」は「…する」を「…はしない」といいかえられるから切りはなせるが、これら「論ずる、涙する」はいいかえられない(切りはなせない)ので1語であつかう。

cf2. よくする → よく / する

形容 本動

ぼんやりする → ぼんやり / する

副詞 本動

*形容詞連体形、副詞等につく例

*従来との違い

☆従来は2と、3の一部(辞書にのっている分)は実行していたが、1は「日本語品詞の分類」にのっている(補助動詞の(3))にもかかわらず、行われていなかった。この機会に統一することとした。

2.3 動詞その他

(1) 尊敬表現(接頭辞のつくタイプ) — 尊敬表現の規則は他の規則より優先する —

基本形1 = 接頭辞 + {サ変名詞、動詞・連用形} (+【格助詞】) + 補助動詞
 {ご、お} + 【1】 (+【2】) + 補助動詞

◆【1】について

尊敬表現では接頭辞のあとにくるのは名詞、サ変名詞、動詞の連用形、などがあり、この順に名詞的色彩が薄れる。基本形1のタイプ(うしろに補助動詞がくるタイプ)は名詞的色彩のうすいもの(サ変名詞、動詞・連用)を好む。「ご」のあとには漢語すなわちサ変名詞が、「お」のあとには動詞の連用形がくるというのが原則である。(例外:お電話する、ご案内下さる、お辞儀いたし、等)

eg. ご説明して下さい。	→	ご / 説明 / し / て / 下さい
		接頭 サ名 補動 接助 補動
ご持参下さい。	→	ご / 持参 / 下さい
		接頭 サ名 補動
お電話下さい。	→	お / 電話 / 下さい
		接頭 サ名 補動
お返事下さい。	→	お / 返事 / 下さい (＝ご返事下さい)
		接頭 サ名 補動
ご連絡申し上げます。	→	ご / 連絡 / 申し上げます
		接頭 サ名 補動
ご連絡差し上げます。	→	ご / 連絡 / 差し上げます
		接頭 サ名 補動

動詞の連用形のなかには辞書に名詞としてエントリされているもの(例:願い、知らせ、等)もあるが、それよりもこの規則が優先されると考える。

eg. お願いします。	→	お / 願い / し / ます
		接頭 本動 補動 助動
お書き下さい。	→	お / 書き / 下さい
		接頭 本動 補動
お聞かせ願えますか。	→	お / 聞か / せ / 願え / ます / か
		接頭 本動 助動 補動 助動 終助
お答え出来る。	→	お / 答え / 出来る
		接頭 本動 補動
お知らせ下さい。→		お / 知ら / せ / 下さい
		接頭 本動 助動 補動
cf. お送り先	→	お / 送り / 先
		接頭 普名 普名 (「送り」が動詞なら連体形になるはず)
申込み用紙	→	申込み / 用紙
		普名 普名

また、{ご、お}と【1】の結合がかなり強いものも統一をとるため切る。

eg. <u>ご覧</u> なさる。 <u>ご覧</u> 下さる。	→	ご / 覧
		接頭 サ名
<u>お出まし</u> 下さる。	→	お / 出 / まし
		接頭 本動「出る」連用 補動「ます」(文語四段)連用
<u>おいで</u> 下さる。	→	お / いで
		接頭 本動「いづ」連用

◆【2】について

ここには格助詞「に」が入り得る。
 (「に」は補助動詞に「なる」をとるのが原則)

eg. お支払い下さい。	→ お / 支払い / 下さい
	接頭 本動 補動
<u>お支払いになりましたか。</u>	→ お / 支払い / に / なり
	接頭 本動 格助 補動
大阪空港から <u>おいでになる方</u> なんです。	→ お / いで / に / なる
	接頭 本動 格助 補動
<u>ご宿泊になりたい</u> とのこと	→ ご / 宿泊 / に / なり
	接頭 サ名 格助 補動
<u>お泊まり</u> になったらいいと存じます。	→ お / 泊まり / に / なつ
	接頭 本動 格助 補動

基本形2 = 接頭辞 + {名詞、動詞・連用形} + 助動詞
 {お、ご} + 【3】 + {です、だ} + 【4】

◆【3】について

基本形2のタイプは基本形1のタイプにくらべて【3】部分により名詞的なものを要求する。

eg. 同じ <u>お値段</u> でしょうか。	→ お / 値段 / でしょ
	接頭 普名 助動

ここで「より名詞的なものを要求する」ということから【3】部分には

動詞 < サ名 < 普名
 形容 < 形名 < 普名
 副詞 < 普名

という順であらわれやすくなると考えられるが、基本形1のように顕著な分布はしていないため、実際には名詞的でない動詞、形容詞、副詞等もみられる。

eg. <u>お支払い</u> でございますか。	→ お / 支払い / で / ございます
	接頭 本動・連用 助動 補動
<u>お悪い</u> んでしょうか。	→ お / 悪い / ん / でしょ
	接頭 形容・連体 準体 助動
<u>おいくら</u> でしょうか。	→ お / いくら / でしょ
	接頭 副詞 助動

また接頭辞が「お」の場合、本動詞・連用形から転成した名詞(例えば上例中の「支払い」など)も動詞・連用形とラベルづけするため、更に名詞的でないものが増えている。これは次の例の「持ち」のように「普通名詞」とラベルづけしがたいものがあり、統一をとるためには「本動詞・連用形」とせざるをえなかったためである。

eg. <u>お持ち</u> でしょうか。	→ お / 持ち / でしょ
	接頭 本動・連用 助動

しかし、接頭辞が「ご」の場合は【3】には(前からは「ご」が、後ろからは「だ」が名詞的要素を要求するので)普通名詞・形容名詞がくるのが原則である。

eg. <u>ご存じ</u> (御存知)だと思います。	→ ご / 存じ / だ
	接頭 普名 助動
ご自由です	→ ご / 自由 / です
	接頭 形名 助動

(2)本動詞と補助動詞の境界は？

1. 動詞には、「動詞本来の意味、機能を充分保持しているもの」からだんだん意味や機能が薄れていって、「動詞本来の意味、機能を失ってしまったもの」まで色々あり、本動詞と補助動詞の間には明確な境界線はひけない。(本動詞と補助動詞の中間付近にある、抽象性の高い動詞には例えば、「成る」「行く」「言う」などがある。)

eg. もうお越しに <u>な</u> りましたか？	→	なり	補助「なる」連用
500円に <u>な</u> ります。	→	なり	本動「成る」連用
あなたなしではとても生きて <u>い</u> けない。	→	いけ	補助「いける」未然
外へ出て <u>行</u> く。	→	行く	補助「いく」終止
お金を払って <u>行</u> く。	→	行く	本動「行く」終止
おなかが出て <u>困</u> っている。	→	困っ	本動「困る」連用、つ音便

同じ事は複合格助詞にもいえる。複合格助詞はもともと助詞+本動詞+助詞の組合せだが、一口に複合格助詞といっても、「に対して」のように、「対する」という動詞が意味を保っているものから、「として」のように、「する」の意味や機能を失っているものまでいろいろあるが、ATRでは、「として」「において」「における」「について」「にとって」「にしろ」「にせよ」「でもって」「をもって」は全体で1つの格助詞とし、他の「に関して」「に対して」等は切ることにしている。(参考:10.助詞の10.1(1))

2. 吉本「日本語品詞の分類」であげられていた補助動詞を改めて学研により洗い出してみると(<付録1>)、次の3タイプに分かれた。(なお、新明解では補助動詞をたてていない。)

(a)補助動詞(動詞連用形+「て」につづくもの)

(b)接尾辞(動詞連用形につづくもの)

これは動詞としての意味は薄れており、前の動詞に意味をそえている。

(c)本動詞(動詞連用形につづくもの)

これは動詞としての意味はより濃く残っている。

(b)(c)は前接する動詞をあわせて複合動詞としている例も多い。

これをみても明らかなように、本動詞と補助動詞の境界は非常に微妙であり、辞書を解析の拠り所とはしがたい。が、そもそも補助動詞は本動詞が本来の意味を失い、他の動詞に依存するようになるようになっていったものである。そういう意味において、本動詞と補助動詞は連続的に分布しているし、文脈で判別しなくてはならない場合も多い。

『本動詞+「て」』及び『本動詞』の後に動詞が続くという構文はその動詞が前の本動詞に依存していることを示しているのので、その動詞は補助動詞であることが多いが、中に少数例外として本動詞がみられることもある。その区別は意味による(どの程度本来の意味を保っているか)しか他はない。

複合動詞については、『新明解に見出し語としてエントリーされていれば採用し、されていない場合は分割する』という方針をとった。具体的には次のアルゴリズムで判断する。

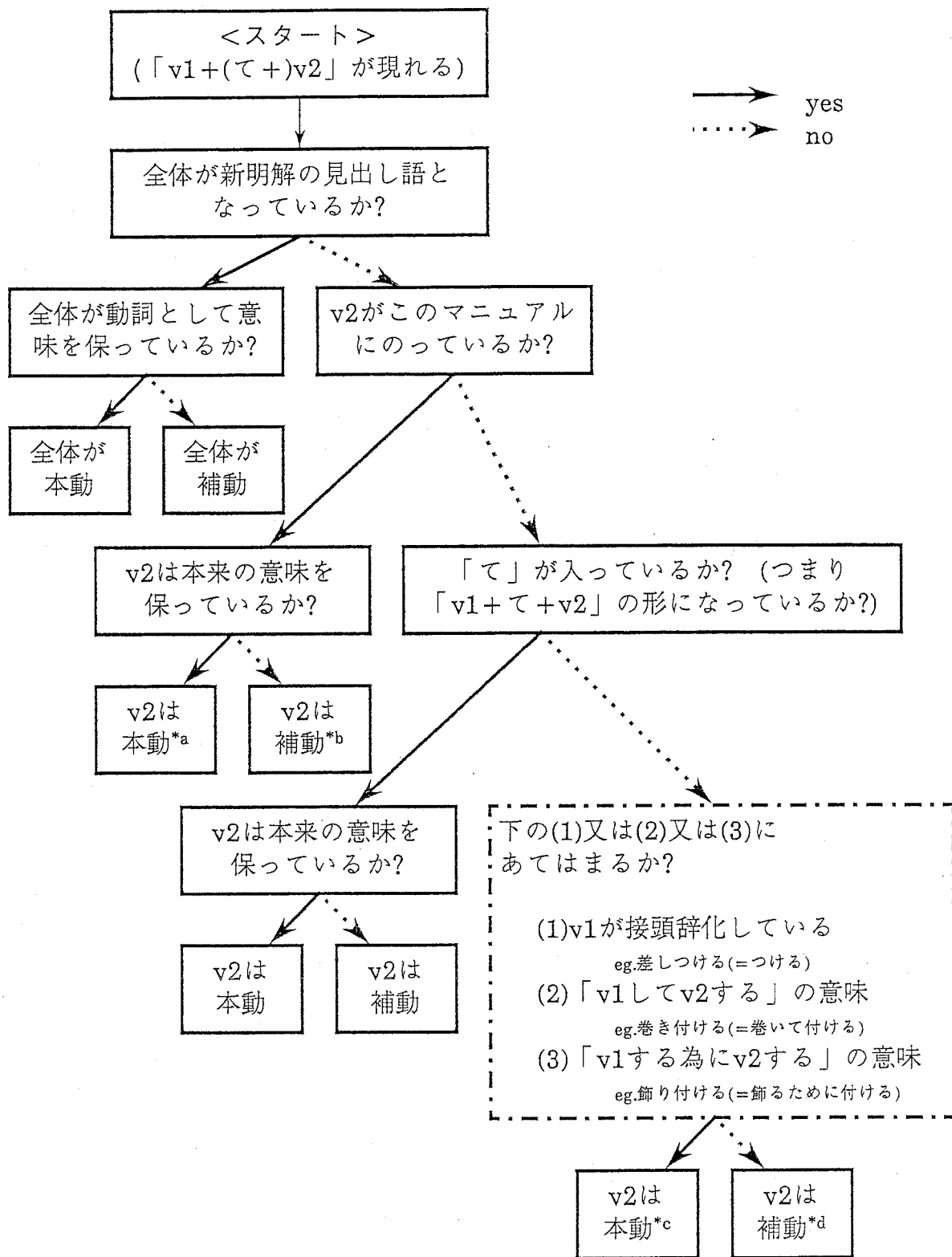


図2-1 「v1+(て+)v2」におけるv2の判別アルゴリズム

*a. eg. お金を払って行く。
彼はここへ自転車に乗ってきた。
ふろしきをたたんで(ポケットに)しまう。
商品を机の上に並べておく。
暗いうちから明かりをつけて見る。

*b. eg. この世の中を生きていく。
いま手紙を書いている。
戸をあけておく。
宿題を全部やってしまった。

*c. ここにくるものは動詞のとり格助詞がv1、v2共に結び付く。
eg. 糸を巻く+糸を付ける=糸を巻き付ける

*d. ここにくるものはv1のとり格助詞が複合動詞全体を支配することが多い。
(v2の格助詞ときもある)
eg. 山に登る+始める=山に登り始める
魚を焼く+(焼き魚が)上がる=魚がやきあがる。

さらに以下の(4)か(5)か(6)にあてはまる。

(4) 「v1することがv2する(v'2する)」又は
「v1することをv2する(v'2する)」又は
「v1することをv2する(v'2する)」の意味 注意; v'2は学校文法でいう
ところの自動詞

eg. よみすぎる=よむことがすぎる
流れつづける=流れることがつづく
読みつづける=読むことをつづける
読みなれる=読むことになれる

(5) 「v2してv1する」の意味

eg. 読みとおす=通して読む

(6) v2が他の言葉でしか表せないか、v2が単独では同じ意味に用いられない。

eg. ならみつける=つよくにらむ
よみつける=いつもよんでなれている
行きそびれる

*従来との違い

☆従来は「て」の入っていないV1+V2の形(図2-1において一点斜線で囲まれた部分)はV2をすべて補助動詞としていた。

*解説

☆従来はV2の中にも本来の意味を保っているものがあることは感覚的に分かっていたものの、本動詞と補助動詞の境界が明確でないためこの問題はなおざりになっていた。これでも完全とはいえないが、従来よりは細かく対応するようにした。

3.形容詞

認定基準

自立語。活用する。言い切る形は五十音図のイ段の音で終る。
述語になる。事物の性質や状態を表す。

3.形容詞

(例) 美シイ、可愛イ、大キイ。

問題点

動詞を否定する「ナイ」が助動詞であるのに対し、形容詞を否定する「ナイ」は単独で文節を構成することが出来ることから(形容詞と「ナイ」の間に「ハ」「モ」を挿入することができる)形容詞であると伝統的にはされてきた。しかし、ここでは助動詞に含めておく。

(注1) いわゆる形容動詞は認めない。形容名詞 + ダ/ト(助動詞)と考える。
助動詞として「ダ」が後続するダナニ型形容名詞と、「ト」が後続する(言いきる形が普通はなく、連体形が「タル」、連用形が「ト」で終る)タルト型形容名詞とがある。ダナニ型形容名詞とタルト型形容名詞を兼ねるものもある。

◆ダナニ型形容名詞の例

[キレイダ]、[簡単ダ]、[可能ダ]、[同ジダ]。

◆タルト型形容名詞の例

[堂々タル]、[確固タル]、[整然タル]、[洋々タル]。

(注2) 連体修飾の形にした場合、

「…ナ」となるものを「形容名詞 + ダ」

「…ノ」となるものを「(ただの)名詞 + ダ」

とし、2つの「ダ」は異なる語とする。

「元気ダ、達者ダ、確カダ、確実ダ、親切ダ、有名ダ」は形容名詞、「病気ダ、本当ダ、真実ダ、嘘ダ、虚偽ダ、無名ダ」はただの名詞である。但し、「元気のもと」「親切の押し売り」とも言うので、その場合は「元気」「親切」はただの名詞である。「奇麗ダ」「同ジダ」の「奇麗」「同ジ」は独立した名詞としての用法はないが、一応形容名詞としておく。

(1)形容詞っぽいものについて

下の①から⑦の下線部は、新明解に準ずると③以外全て形容詞になる。

- | | |
|------------------|-------|
| ①わかり <u>やすい</u> | ①接尾辞 |
| ②わかり <u>にくい</u> | ②接尾辞 |
| ③わから <u>ない</u> | ③助動詞 |
| ④うま <u>くない</u> | ④助動詞 |
| ⑤わか <u>ってない</u> | ⑤助動詞 |
| ⑥わか <u>ってほしい</u> | ⑥補助動詞 |
| ⑦ね <u>こでない</u> | ⑦助動詞 |

cf.⑧雲一つない空

⑧形容詞 (参考:9.助動詞(1))

*従来との相違点

☆従来は

- ①形容詞(X)
- ②形容詞(X)
- ③助動詞(O)
- ④助動詞(O)
- ⑤助動詞(O)
- ⑥形容詞(X)
- ⑦形容詞(X)

と解析していた。

*解説

☆①②について

「[やすい]」はまだしも「[にくい]」のほうは(本来の意味がよりうすいという点において特に接尾辞的であり、形容詞「にくい」とはまた別のものといえる。このことは「わかり」と「やすい」が対等に接続しているというより、「やすい」を「わかり」に添えることで初めて「わかりやすい」という意味が出ることを考えてもわかる。

故にこれらは動詞連用形に接続する接尾辞ということになる。

「[がたい]」「[よい]」も同じ扱いにする(参考:日本語教育辞典)

☆④⑤⑥⑦について

これらはいかなれば補助形容詞の範疇にはいるものであるが、補助形容詞をATRではたててないので、次のように解釈することにする。

④吉本「日本語品詞の分類」により助動詞「ない」に含める。

⑤わかってない=わかっていない

動詞を否定する助動詞「[ない]」と同じとみることができる。

⑥わかってほしい <==> わかっている

この「ほしい」は補助動詞の「いる」と同じタイプとみて、補助動詞にふくめ、この「ほしい」のみ特殊型活用をすると考える。

⑦助動詞「ない」に含める。

なお、この補助形容詞にあたる語は「ない」「ほしい」「やすい」「にくい」の4語のみである。

***参考**

☆この章の最初にある「形容詞の問題点」という記述における、「動詞を否定する「ない」」とは、動詞及び動詞に準ずる語の未然形につく「ない」である。ただし、サ変動詞には「し」につき、動詞「ある」にはつかない。「形容詞を否定する「ない」」とは、いわゆる補助形容詞のことであり、学研によれば動詞の連用形+「て」形容詞・形容動詞及び一部の助動詞(「だ」「らしい」「たい」など)の連用形などの下につくものことである。

(2)「申し訳ない」について

「申し訳ない」は形容詞「ない」の意味がうすれ、新明解に派生語としてのつているので、一語で形容詞とするが、間に格助詞がはいった場合は分割する。

eg. 申し訳ない → 申し訳ない
形容
申し訳がない → 申し訳 / が / ない
普名 格助 形容

同様なものに、「仕方ない」「きわまりない」がある。(参考:9.助動詞(1))

***従来との相違点**

☆従来は

eg. 申し訳ない → 申し訳 / ない
普名 形容
仕方ない → 仕方ない
形容

となっていた。

(3)不規則な活用(形容詞の語幹形)

形容詞「よい」「ない」には語幹が二つある。すなわち、「よ/よさ」「な/なさ」。このうち「よさ」「なさ」は、ある種の助動詞(そうだ、そうです)がうしろにつくときに見られる形である。なお、語幹に「~さ」の形がある形容詞はこの2つだけである。

eg. 京都観光がよさそうですね。 → よさ / そうです
形容・語幹 助動

cf. あなたには彼女のよさが分かっていない。 → よ / さ
形容・語幹 接尾

接尾辞の「さ」については12.接尾辞(3)を参照のこと。

4.副詞

認定基準

自立語。活用しない。用言を修飾する。

4.副詞

(例) サット〔颯ト〕、ムツツリ、ガラリト、マスマス〔益益〕、ハルバル〔遥遥〕、コウ、ソウ、シイテ〔強イテ〕、カエッテ〔却ッテ〕、一向、早速、カナリ、ズット、スコシ〔少シ〕、モット、タイヘン〔大變〕、チョット、モシ〔若シ〕、タトイ〔仮令〕、万一、オソラク〔恐ラク〕、タブン〔多分〕、スコシモ〔少シモ〕、オサオサ、マサカ、ヨモヤ、決シテ、チョウド、マルデ、ゼヒ〔是非〕、ドウカ、ドウゾ、ナゼ〔何故〕、ドウシテ、イッタイ〔一体〕、必ず、キット、マサニ〔正ニ、将ニ、当ニ〕。

(1)副詞の環境

副詞は本来名詞が出現しやすい所に現れることがある。

eg. すぐでございます。(「だ」の前)

そうでございます。(「だ」の前)

さきほどのつづき(格助詞の前)

いつもより(格助詞の前)

ごたごたしております(本動詞「する」の前)

(参考:2.動詞の2.2(3))

cf. よさそうだ(助動)

よさそうです(助動)

そうは問屋がおろさない(副詞)

ただし、副詞と名詞の境界はきわめて曖昧である。(参考:1.名詞の1.7(3)) 例えば、上にあげた「さきほど」にしても、新明解では、確かに副詞だが、学研では「名詞(副詞的にも使う。)」とある。

(2)辞書にない副詞

◆「に」のつく副詞

「に」のつく副詞は多い。が、そのわりに辞書における扱いは様々で、従来の方法(新明解辞書のエントリーを派生語までチェックする)では、煩雑なことこの上ない。そこで、これらは「に」がつくことで、より副詞的に働くと考えて、分割する方向で扱いたい。ただし、分割したら意味を持たなくなってしまう(使えなくなる)ものは、「に」を含めて一つの副詞とする。

eg. すぐに	→	すぐ / (に)
		副詞 格助
即座に	→	[即座 / (に)]
		普名 格助
更に	→	更に
		副詞

(「更」だけでは使わない。もちろん辞書にもない。)

cf. 自由に	→	[自由 形名	/ (に)]	助動「だ」連用
早急に	→	[早急 形名	/ (に)]	助動「だ」連用

また、下にあげる例は新明解にのっているが、上の例と統一をとり、効率をよくするためにきることにしたい。ただし、「に」の前が名詞か副詞かは新明解によった。

eg. 同時に	→	[同時 普名	/ (に)]	格助
とうに	→	とう 副詞	/ (に)	格助
ついでに	→	[ついで 普名	/ (に)]	格助

◆ 「と」のつく副詞

eg. どんどんと	→	どんどん 副詞	/ (と)	格助
ほのぼのと	→	ほのぼの 副詞	/ (と)	格助詞

*従来との相違

☆従来は新明解に「どんどん...と」のようにあったため「...たる!...と」の場合と混同してタルト型助動詞の連用形とみていた。

◆ 「それは」

eg. <u>それは</u> 、どうもありがとうございます	→	それ 代名	/	は 係助
-------------------------------	---	----------	---	---------

*解説

☆一語で副詞か代名詞+係助詞か判断に迷うので、代名詞+係助詞に統一することにした。

◆ 「初めて」

eg. わたし、このような会議に参加するのは <u>初めて</u> ですので...	→	初めて 副詞
---	---	-----------

*解説

☆新明解での扱いは名詞「初(め)」の派生語、学研では見出し語で副詞とある。派生語の名詞は採用しない方針だが、かといって、「初めて」を「初め/て」とするのも気味が悪く、一方同じような(学研では同じく副詞として見出し語である)「努めて」を新明解でも副詞としていることから、「初めて」という派生語を名詞ではなく副詞として採用することにした。ただ、派生語としてさえ立項していない分に関しては副詞としてなりたつほどに至ってないのだとして「動詞・連用形+接続助詞」とする。

eg. まとめて	→	まとめ / て
----------	---	---------

(3) 「また(又)」

以前「また」が副詞か接続詞かで混乱していた例がみられたので、以下に例をあげ、ここでの方針を示しておく。(これらは学研の辞書を参考とした。)

(a) 副詞の「また」

eg. いずれまた伺います。

<もう一度>

これ(も)またたいへん美しい。

<同じく>

なんでまたそんなことをしたんだろう。

<それにしても>

彼はまたなかなかの愛妻家でもある。

<その他に>

(b) 接続詞の「また」

eg. 気がやさしいし、また力も強い。

<つけくわえ>

言ってもよい。また言わなくてもよい。

<あるいは>

政治家であり、また作家である。

<列挙>

cf. またの機会にお会いできることを楽しみにしております。

→

また
名詞

5.連体詞

認定基準

自立語。活用しない。単独で連体修飾語としてだけ用いられる。

5. 連体詞

(例) コノ〔此〕/ソノ〔其〕/アノ〔彼〕/ドノ〔何〕、コンナ/ソ
ンナ/アンナ/ドンナ、大キナ、小サナ、アラユル、イワユ
ル、タイシタ、アル〔或〕(例、アル/(人))、我ガ〔我〕、ト
ンダ。

(1) 連体修飾にならない連体詞

吉本「日本語品詞の分類」(前頁枠内)には連体詞の認定基準に「連体修飾語として
だけ用いられる」とあるので、

どのような → どの / よう / な
としたいくなるが、「ような」は一つで助動詞の活用形だとみとめられている。
よって

どのような → どの / (ような)
連体 助動「ようだ」・連体

のようにする。

cf. このような → この / (ような)
連体 助動「ようだ」・連体

他に連体修飾語とならない例として以下のものがある。

どのくらい → どの / (くらい)
連体 副助

(2) 辞書にない連体詞

◆ 「こう、そう、ああ、どう」のつくもの

「こう、そう、ああ、どう」を含む語は次の例の下線部は一見すべて連体詞なの
だが、原則的に分割することにする。

eg. ほかにはどういった事が → [どう / (いっ / た)]
副詞 本動 助動
ほかにはどういう事が → [どう / (いう)]
副詞 本動
cf. ほかにはどんな事が → どんな
連体

他に、次のようなものがある。

こうした親切が時にはあだになる。 → [こう / (し / た)]
副詞 本動 助動

*参考

☆学研によれば「言う」の用法の一つとして、以下のものがあげられている。
一番典型的な実質的意味を失い、「言う」の表わす意味をとどめながらも動詞として
の機能を半ば失ったもの。

(ニ)副詞「こう、そう、ああ、どう」に「いう」「いった」の形について。

*従来との相違点

☆従来は新明解にのっているか、いないかで、ひとまとめにするか、切るか決めていた。そのため、以下のような例がみられたが、今後、これらは同じ扱いとする。

eg. どういう事? → どういう
連体
こいう事。 → こう / いう
連体 本動

ただ、次に示すように辞書エントリーの有無には「こう、そう、ああ、どう」にある程度の傾向が見られる。

	このマニュアルでの扱い	学研での エントリー の有無	新明解での エントリー の有無
こいう そいう あいう どう	こう(副詞)+いう(本動) そう(副詞)+いう(本動) ああ(副詞)+いう(本動) どう(副詞)+いう(本動)	— 連体 — 連体	— — — —
こいった そいった あいった どう	こう(副詞)+いう(本動)+た(助動) そう(副詞)+いう(本動)+た(助動) ああ(副詞)+いう(本動)+た(助動) どう(副詞)+いう(本動)+た(助動)	— — — —	— — — —
こする そする あする どう	こう(副詞)+する(本動) そう(副詞)+する(本動) ああ(副詞)+する(本動) どう(副詞)+する(本動)	— — — —	— — — —
こした そした あした どう	こう(副詞)+し(本動)+た(助動) そう(副詞)+し(本動)+た(助動) ああ(副詞)+し(本動)+た(助動) どう(副詞)+し(本動)+た(助動)	— 連体 — —	— 連体 — —
こして そして あして どう	こう(副詞)+し(本動)+て(接助) こう(副詞)+し(本動)+て(接助) こう(副詞)+し(本動)+て(接助) どうして(副詞)*1	— 接続 — 副詞	— 連語・接続 — 副詞・感動詞

*1 : 「どうして」については疑問詞の規則が優先すると考える。
(参考:13.その他(5))

よって、上の「こいう」と「こう/いう」の解析の相違に意味があるとも言えるが、ここでは一応切る方向で統一した。(参考:13.その他(9))

(3)連体詞だよ

「大きな」は文語形容動詞「大きなり」の連体形「大きな」の転成語で連体詞である。同じようなものとして「小さな」がある。

新明解は「当」を連体詞として認めていないが、「同」は認めている。学研は「当」も「同」も連体詞として認めており、両者を類語としている。ここでは学研を参考にして新しく「当」を連体詞として認めることとする。

eg. 当事務局としましては…… → 当
連体

6. 接続詞

認定基準

自立語。活用しない。主語・述語・修飾語のどれにもならない。
文と文、句と句、語と語をつなぐ。

6. 接続詞

(例) ダカラ、ユエニ〔故ニ〕、ソコデ〔其処デ〕、シカシ〔併〕、ケレドモ、ダガ、マタ〔又〕、オヨビ〔及〕、ソレカラ、ソシテ、スルト、ソノウエ〔其上〕、ソレニ、ナオ〔猶〕、ソレトモ、アルイハ〔或ハ〕、モシクハ〔若クハ〕、マタハ〔又ハ〕、ナイシハ〔及至ハ〕、スナワチ〔即、及、則〕、ツマリ、サテ、トコロデ〔所デ〕、デハ、ダッテ、モットモ〔尤〕、タダシ〔但〕。

(1) 接続詞の省略形、丁寧形

電話会話には、接続詞の省略された形や丁寧な形がよく出て来る。

◆ 「で」

eg. 地下鉄の駅までは近いのでしょうか。で、非常に分かり易いのでしょうか → で
接続

*解説

☆この場合「で」は「それで」の意味であり、接続詞である。

◆ 「ですが」「ですから」(丁寧体について)

eg. ですが → [です / が]
助動 接助
ですから → [です / から]
助動 接助

*解説

☆同じ様な機能をもつ、「だが」や「だから」は接続詞として辞書にあるが、これらの丁寧体はのってない。切っても意味を持つし、比較的productiveなので(「で/あり/ます/から」、「で/ございます/から」等がある)丁寧体は切ることにする。

◆ 「そしたら」「そう/し/たら」

eg. そしたら、こうしましょう。 → そしたら
接続
cf. そうしたら → そう / し / たら
副詞 本動 接助

*解説

☆「そしたら」「そうしたら」「そうしましたら」等は、productiveといえるし、副詞「こう、そう、ああ、どう」のつくものは切るという原則もあるので(参考:5.連体詞(2))切るが、副詞「そ」を認めるのは強引なので「そしたら」は切らず、一語で接続詞とする。

吉本「日本語品詞の分類」にあがっていた接続詞「こうして」は学研にも新明解にものっておらず、また、上の例と統一をとるために、接続詞のエントリーから削ることにする。(「こう/し/て」と切る。)

(2)辞書にない接続詞

◆ ないしは

eg. 定員は五名ないしは七名

→ ないしは
接続

*解説

☆「ないしは」は学研では子見出し(接続詞)となっているが、新明解では見出し語にも子見出しにもしていない。そのため現在接続詞「ないし」+係助詞「は」と切っている。が、同じような「または」は一つで接続詞ととっている。接続詞はそうバリエーションのあるほうではないので、「ないしは」も一つで接続詞としたい。

7.間投詞

認定基準

自立語。活用しない。主語・述語にならない。言いよどむ場合などに、文の中に挿入されて用いられる。間投詞を取り除いても文の文法性および意味には影響しない。

7.間投詞

(例) ア、アー、アノー、エー、エット、エーット、ソノー、
チヨット、デ、マア。

8.感動詞

認定基準

自立語。活用しない。主語・述語にならない。感動・呼びかけ・応答・挨拶を表し、独立性がある。

(3)同形異品詞

◆「まあ」

- eg. まあ、なんて素敵なの! → まあ
感動
- cf. まあ食べてみなさい。 → まあ
副詞

「まあ」をすべて「感動詞」だと思わず、意味を考えて判断しなくてはならない。(もちろん「意味」を考えることはどの場合でも重要である。)

9.助動詞

認定基準

付属語。活用する。用言にそえられる。但し、この基準で言えば活用しない「タ」は助詞となるはずだが、慣例に従って助動詞としておく。

9.助動詞

(例)以下に列挙するもののみを助動詞と認める。

サセル……………使役

「サセル」「セル」ともに同一の語で、後者は前者の、五段・サ変動詞接続における異形態^注とする。

(注)異形態 … 同一の語が一定の環境で多少異なった形式として表れたもの。

ラレル……………受身・可能・自発・尊敬

「ラレル」「レル」ともに同一の語で、後者は前者の、五段・サ変動詞接続における異形態とする。

ナイ……………否定

タイ……………希望

ラシイ……………推定

ソウダ……………様態・伝聞

ヨウダ……………推量

ミタイダ……………比喩・例示

ダ……………断定

ダ……………形容名詞に後接して、いわゆる形容動詞を構成。

マス……………丁寧

デス……………丁寧な断定

形容詞及びラシイにも付加され、その丁寧形を表す。

デス……………形容名詞に後接する「ダ」の丁寧形

ソウデス……………「ソウダ」の丁寧形

ヨウデス……………「ヨウダ」の丁寧形

ミタイデス……………「ミタイダ」の丁寧形

タ……………過去・完了・存在

ヌ(ン)……………否定

ヨウ……………推量・意志

「ヨウ」「ウ」ともに同一の語で、後者は前者の、五段・サ変動詞における異形態とする。

マイ……………否定の推量・否定の意志

[追加]以下は今回追加されたもの。

ベキ……………当然

サス……………使役

「サス」「ス」ともに同一の語で、後者は前者の、五段動詞接続における異形態とする。

(1)助動詞「ない」と形容詞「ない」

ATRにおける助動詞の「ない」とは、次にあげる③④⑤⑦のように、動詞及び動詞に準ずる語の未然形,動詞の連用形+「て」,形容詞・形容動詞・一部の助動詞の連用形などの下につくものである。(参考:3.形容詞(1))

- eg. ③分からない
- ④うまくない
- ⑤分かってない
- ⑦ねこでない

また、ATRにおける形容詞の「ない」とは次にあげる例のように「存在しない」の意味をもつものである。これらはN(+格助詞)といった主部の後につく。

- eg. 星がない
- 名もないひとびと
- まちがいなく

ところで、以下にあげる例は特殊な活用形がみられるものである。

- | | | | | | | | |
|--|---|--------------|--------------|----|----|---|----|
| eg. 見 <u>つけ</u> な <u>き</u> やい <u>け</u> ないんですけれども | → | な <u>き</u> や | な <u>き</u> や | ない | 助動 | — | 仮定 |
| cf. と <u>ら</u> ないで <u>ほ</u> しい | → | ない | ない | ない | 助動 | — | 連用 |
| | | で | で | で | 接助 | — | — |

ここで、新明解中に見出し語もしくは派生語としてあるものについては次のようにしたい。

◆助動詞「ない」のつくもの

- | | | | | |
|---------------|---|------------|---|----|
| い <u>け</u> ない | → | い <u>け</u> | / | ない |
| | | 本動「行ける」 | | 助動 |
| え <u>な</u> い | → | え | / | ない |
| | | 本動「得る」 | | 助動 |

◆形容詞「[ない]」のつくもの

(「ない」に「存在しない」の意味がうすい)

- | | | |
|------------------------------|---|-----------------------------|
| eg. と <u>ん</u> でも <u>な</u> い | → | [と <u>ん</u> でも <u>な</u> い] |
| | | 形容 |
| おも <u>い</u> が <u>け</u> ない | → | [おも <u>い</u> が <u>け</u> ない] |
| | | 形容 |
| 申し <u>訳</u> ない | → | [申し <u>訳</u> ない] |
| | | 形容 |
| しか <u>た</u> ない | → | [しか <u>た</u> ない] |
| | | 形容 |
| き <u>わ</u> まり <u>な</u> い | → | [き <u>わ</u> まり <u>な</u> い] |
| | | 形容 |
| も <u>っ</u> た <u>い</u> ない | → | [も <u>っ</u> た <u>い</u> ない] |
| | | 形容 |

ただし、丁寧体は切る。

- | | | | | | | |
|--|---|--------------|---|-------------------------|---|----|
| eg. 申し <u>訳</u> ご <u>ざ</u> い <u>ま</u> せ <u>ん</u> | → | [申し <u>訳</u> | / | ご <u>ざ</u> い <u>ま</u> せ | / | ん] |
| | | 普名 | | 本動 | | 助動 |

c. 助動詞の「で」

以前はこの「で」を格助詞としていた誤りがみられた。間違えやすいものには次の2種類がある。

1. 「である, でない」の「で」

eg. そう <u>で</u> なければホテル代だけで <u>結構</u> です。	→	で	……	で
		助動・連用		格助
会議に出席する訳 <u>で</u> はありません <u>ので</u>	→	で	……	で
		助動・連用		接助
バルバーン先生 <u>で</u> いらっしやいます <u>ね</u> 。	→	で	/	いらっしやい
	→	助動・連用		補動

2. 助動詞(中止法)の「で」

これは「です、だ」に言い換えて文がおかしくならない。また、そのあとにこれと対応する「です、だ」があることが多く、ない時も、少し編集すれば対応した形に直すことができる。

eg. 各々ダブル <u>で</u> 、期間は8月5日から10日まで <u>です</u> 。	→	で
		助動・連用

(5) 助動詞「た、だ」の仮定形

助動詞「た、だ」の仮定形「[たら]、[なら]」は次のように考える。

◆ 「たら」

→ 接続助詞

(「た」の表す過去の意味が仮定形にはないので「た」の活用から「たら」を削り、接続助詞としてのみ認める。)

◆ 「なら」

(「だ」と置き換えられる時は)

→ 助動詞「だ」の仮定形

eg. きれい <u>なら</u>	→	(きれい)	/	なら
		形名		助動「だ」仮定

(「だ」と置き換えられない時は)

→ 接続助詞

eg. できる <u>なら</u>	→	[(できる)	/	なら]
		本動		接助

(体言のあとにつく時は)

→ 副助詞

eg. 言語学の本 <u>なら</u> ここにあるよ。	→	[(本)	/	なら]
		普名		副助

(6)文語の助動詞

問題点: 吉本「日本語品詞の分類」では、『「日本語品詞の分類」にのせてあるもののみを助動詞と認める』となっているが、文語の助動詞である「べし」等はない。

→解決策: 「日本語品詞の分類」に注釈して曰く「但し、文語はこの限りではない。」(活用等は付録3を参照のこと。)

eg. コール首相にとって <u>喜ぶべき</u> は <u>はず</u> のものだった。	→ 喜ぶ / べき / はず
	本動・終止 [文]助動 普名
落胆 <u>すべき</u>	→ 落胆 / す / べき
	サ名 補動・終止 [文]助動

(7)「せる、させる」「す、さす」

助動詞「せる、させる」の代わりに五段に活用する「す、さす」を用いることがある。

eg. この会議 <u>ちょっと内容を見さ</u> してもらいました。	→ さし
	助動「さす」・連用

*解説

☆「す」は五段動詞、「さす」は一段・カ変・サ変動詞に接続するとされている。

eg. <u>書かせて</u> もらいました。	→ 書か / せ / て	
	本動	助動「せる」 接助
<u>書かして</u> もらいました。	→ 書か / し / て	
	本動	助動「す」 接助
<u>見させて</u> もらいました。	→ 見 / させ / て	
	本動	助動「させる」 接助
<u>見さして</u> もらいました。	→ 見 / さし / て	
	本動	助動「さす」 接助

cf1. <u>見せて</u> もらいました。	→ 見せ / て	*標準的な表現
	本動「見せる」	接助 「見/させる」(動詞「見る」+助動詞「させる」)の他に、本動詞(他動詞)の「見せる」があることに注意。

cf2. <u>見して</u> もらいました。	→ 見し / て	*「見し」は「見せる」の連用・特殊形
	本動「見せる」	接助 <口語(方言?)>

cf3. <u>送らせて</u> もらいました。	→ 送ら / せ / て	*標準的な表現
	本動「送る」 助動「す」	接助 「見せてもらう」と扱いが違うのは「送らす」という語が辞書エントリーにないため。

cf4. <u>送らさせて</u> もらいました。	→ 送ら / させ / て	*「五段動詞+さす」は厳密に言えば誤用の一種。「さ」+「せ」にしないのは使役の(同じ意味の)助動詞が重なる事はないため。
	本動「送る」 助動「さす」	接助

また、下のような例も上の解説を参考に次のように切ることにはしたい。

eg. 絶滅の危機に <u>立た</u> されている。	→	立た	たた	立つ	本動	五段	未然
		さ	さ	す	助動	一	未然
		れ	れ	れる	助動	一	連用

***従来との相違点**

☆従来は、

eg. 絶滅の危機に <u>立た</u> されている。	→	立た	たた	立つ	本動	五段	未然
		さ	さ	せる	助動	一	未然
		れ	れ	られる	助動	一	連用

としていた。

***解説**

☆「される」には『「する」の受身、尊敬』、『被役の「せられる」の話し言葉形』という2つのパターンがある。従来の解析は、新明解を参考にしたものであるが、「せる」「られる」には「さ」「れ」といった活用はない。新明解自体少しこれら2つのパターンを混同しているのではないかと思われる点がある。新明解第三版によれば、

される(他下一)

「せられる」の圧縮表現。[学校文法ではサ変動詞の未然形+助動詞「れる」と説く]

とあり、その例として、

これから何をされますか。

採用される。

いつの間にか悪人にされる。

たなざらしにされる。

対立が浮き彫りにされる。

相手にされない。

などがあげられているが、これらの例はいずれも「する」の受身形や尊敬であつて、被役表現としての「せられる」の圧縮表現というなら、

みんなの前で歌わせられて(歌わされて)はずかしかった。

等をあげるべきだろう。

この場合、新明解の記述は混乱をまねくので無視し、

◆「する」の受身、尊敬の場合

→ 動詞「する」の未然形+助動詞「れる」

◆被役の「せられる」の話し言葉形の場合

「せる、させる」+「られる」=「せられる」(口語では「される」)

→ 助動詞「す」の未然形+助動詞「れる」

と解析することにはしたい。

ここで「さ」を動詞ととらず、助動詞ととったのは、動詞にとると動詞の「する」が動詞の未然形に接続する(本来なら連用形に接続するはず)ことになってしまうからである。

10.助詞

認定基準

付属語。活用しない。語と語の關係を示す。

10-1.格助詞

名詞及び名詞句に後接して、それが他の語とどういう関係にあるかを示す。

(例) 以下に列挙するもののみを認める。

ガ、ヲ、ニ、ト、ツテ、デ、カラ、ヨリ、マデ、ヘ、ノ。

(注) 「僕のはこれだ」等という場合の「ノ」は準体助詞とする。次の項を参照のこと。

(1)複合格助詞(長い格助詞)に関して

現在、吉本「日本語品詞の分類」にのせてあるもの以外に、

として
について
において
における

の4つを格助詞と認めている。(「として」「について」は新明解が採用していることから格助詞として認めた。「において」「における」は「について」との類似性から採用した。)

また、

にとって
にしる
にせよ
でもって
をもって

の5つを新たに格助詞と認める。

*従来との相違点

☆「にとって」「にしる」「にせよ」「でもって」「をもって」は、動詞部分にほとんど意味が無いし、学研の辞書でも連語扱いしていることから新しく格助詞に認める。

*参考

☆日本語教育辞典による『複合格助詞』は以下の通りである。(ここでも認めたものには下線を引いて示した。)

でもって、
として、
において、について、に当たって、に際して、に関して
に対して、にとって、にわたって、によって、
のために、
をおいて、を指して、をして、を目指して、をもって

これに関して次の2点に注意。

1. 丁寧体は切る。

eg. つきまして	→	に	/	つき	/	まし	/	て
		格助		本動		助動		接助
cf. について	→	について						
		格助						
eg. おきまして	→	に	/	おき	/	まし	/	て
		格助		本動		助動		接助
cf. において	→	において						
		格助						
eg. としまして	→	と	/	し	/	まし	/	て
		格助		本動		助動		接助
cf. として	→	として						
		格助						

*解説

☆これらの丁寧体には活用部位があるので、格助詞にはできない。(格助詞には活用がないし、活用をすべて格助詞として認めるわけにもいかない。) 故に、『丁寧体は切る』とする。

2. 似たようなものでも上で採用したもの以外は切る。(参考:2.動詞の2.3(2))

eg. に対して	→	に	/	対し	/	て		
		格助		本動		接助		
に関して	→	に	/	関し	/	て		
		格助		本動		接助		
に関しまして	→	に	/	関し	/	まし	/	て
		格助		本動		助動		接助
に関する	→	に	/	関する				
		格助		本動				
という	→	と	/	いう				
		格助		本動				
といいます	→	と	/	いい	/	ます		
		格助		本動		助動		
と申します	→	と	/	申し	/	ます		
		格助		本動		助動		

*解説

☆以上の例はかなり固定的に使われるものだが、いずれも従来通り切る。(境界線上にあると考える。)

(2)格助詞です

◆「まで」

eg. A地点からB地点まで → まで
格助

*解説

☆こういう「まで」は新明解では副助詞となっているが、吉本「日本語品詞の分類」及び学研では格助詞である。「から」が格助詞であることも考慮にいれば、やはり格助詞が妥当であると思われる。「まで」が副助詞とラベルづけされる例としては次のようなものがある。

eg. あなたまでそんなこと言うなんて → まで
副助

◆「にて」

eg. 国際コンピューター会議が大阪にて開かれます。 → にて
格助

*解説

☆今まで認められていなかったが、新明解・学研ともに格助としてエントリーしていることもあり認めることにした。

10-2 準体助詞

述語句や連体句を名詞化する働きを持つ「ノ」は準体助詞とする。

(例) 僕のはこれだ。
これは僕のだ。
きれいなのを下さい。
光っているのはなんだろう。

(1) 準体助詞に関して

準体助詞がついた一ままとまりは名詞と同じ役割を果たす。

このことは、例えば、

eg. 困っているというのは泣き言にすぎない。

=> これは泣き言にすぎない。

のように、(代)名詞に置き換えても意味がとおることからもわかる。

cf. これのいいところは体に害がないことです。 → の
格助

10-3 係助詞

種々の語に後接して、それが文及び文章中で主題として働くことを示す。

(例) 以下に列挙するもののみを認める。
ハ、モ、ツテ、ツタラ。

10-4 副助詞

種々の語に後接して、様々の補助的な意味を添え、主として連用修飾語を作る。

(例)以下に列挙するもののみを認める。

コソ、サエ、スラ、ダッテ、バカリ、キリ、ダケ、ノミ、ホド、クライ(グライ)、ズツ、マデ、デモ、シカ、バカリ、ナド、等(トウ)、ナンテ、ナリ、ヤラ、カ(名詞または副詞に付加される場合。e.g. ダレ/カ、ナゼ/カ)

[追加]以下は今回追加されたもの。

ナンカ、ゴト

(1)「くらい」、「ぐらい」

eg. 泣きたいくらい嬉しかった。 → くらい
副助
君ぐらい可愛い人はいない。 → ぐらい
副助

*解説

☆「くらい」「ぐらい」の副助詞の用法は新明解にはない(副助詞的に、とはある)が、吉本「日本語品詞の分類」及び学研では副助詞としている。他の副助詞とのバランスを考えて、副助詞とする。

(2)副助詞「か」

eg. 彼はわがままをきいてくれたのみか、見送りにまで来てくれた。 → のみ / か
副助 副助
鮎原こずえはサーブをうけたばかりか、アタックまできめた。 → ばかり / か
副助 副助
私の編んだセーターを彼は喜ぶどころか、人にあげてしまった! → どころか
接助

*参考

☆副助詞の「か」には、「のみか」「ばかりか」「どころか」などのような慣用句の形で「…ではなく」の意味を表わす、という用法がある。(学研)

*解説

☆上の例のうち「どころか」のみ分割しないのは、

「のみか」=「のみ」+「か」、 「ばかりか」=「ばかり」+「か」

の分割は意味を持つが

「どころか」=「どころ」+「か」

とはできないためである。

☆ただし、「か」を伴わない「どころ」は(新明解には副助詞となっているが)名詞とする。

eg. 最初はみんなへたっぴで、優勝どころではなかった。 → どころ
普名

☆また、助詞の「か」が副助詞か終助詞か判断に迷うので、

副助詞「か」 1.「何か」「誰か」など疑問・不定の語につくもの
2.のみか、ばかりか

終助詞「か」 上記以外のものすべて

のように決めてしまうことにするが、辞書の記述とはずれがあるので注意が必要である。

eg. それは本当でしょうか → か
終助
それは本当かもしれません → か
終助

(参考:付録2---助詞の整理)

(3)新しい副助詞ー「なんか」「ごと/(に)」

◆「なんか」

eg. 車で行きたいんですけども、駐車場なんかはどうでしょう。 → なんか
副助

*解説

☆吉本「日本語品詞の分類」にはエントリーしていないが、学研にも新明解にも
のっていて、かつ「なんか」は「など」に近く、「など」は吉本「日本語品詞の
分類」でも副助詞として認められている。よって、「なんか」を副助詞に加えるこ
とにする。

◆「ごと/(に)」

eg. 広告を刷るごとに追加料金をいただく。 → ごと / に
副助 格助
彼は朝ごと、その大学へ出かけた。 → ごと
副助
cf. りんごを皮ごと食べる。 → ごと
接尾

*解説

☆これも同じく吉本「日本語品詞の分類」にエントリーしていなかったものである
が、今回新しく認めることになった。「ごと」でも「ごとに」の形でも使われる
ことから、「ごと」と「に」に切り分け、「ごと」の品詞に関しては、学研では
なく新明解の方を採用した。

(4)切るかどうか

◆「でも」

eg. eg.零下30度 <u>でも</u> 凍らない。	→	でも 副助
安い部屋 <u>でも</u> 快適に過ごせますか?	→	でも 副助
いまから <u>でも</u> 大丈夫だと思います。	→	でも 副助
あれ <u>でも</u> ない、これ <u>でも</u> ない。	→	で / も … で / も 助動 係助 助動 係助 (である/でないの「で」)
今北海道で豊作のいもは、東北 <u>でも</u> 豊作だそうです。	→	で / も 格助 係助

*解説

☆以上のうち迷うのが、副助詞「でも」か格助詞「で」+係助詞「も」かであろうが、見分け方としては、

1. 「も」をはぶいて文章に支障をきたすかどうか、を考える。
このとき問題なく意味が通じるようであれば、それは格助詞に係助詞が意味を添えているといえる。(係助詞「も」は同程度であるいくつかに関して「AもBも…」という意味を添える。)
2. 「でも」に逆説の意味があるか、を考える。
つまり、複数のもものうち劣ったある一つを指して可とし、(それでいけるのだから)他のものも当然O.Kというような場合。このときは副助詞である。だから、「でも」がついている名詞等の前に「たとえ」をいれてみて、「たとえ…でも」と自然に言えたら副助詞、という言い方をしてもいいかもしれない。

ニュアンスとしては副助詞「でも」はeven、係助詞「も」はtooである。

10-5 並立助詞

種々の語に後接して、対等の名詞句・述語句を作る。

(例)以下に列挙するもののみを認める。

ト、ヤ、ヤラ、ナリ、タリ(ダリ)、

ノ (e.g. 喜んだの、喜ばないの)、タノ(ダノ)、トカ。

(1)並立助詞に関して

eg. 参加者は日本語でも英語ででも読んだり聴いたりできます。

→	でも	……	でも	……	だり	……	たり
	副助		副助		並助		並助

*解説1

☆ 「たり(だり)」 = 並立助詞

「でも」 = 接続助詞か副助詞、もしくは「で/も」

☆ 基本的に「で/も」で切って、意味が通じるものについては、格助詞「で」+係助詞「も」とし、(分離性・交換性を考慮)意味が通じなければ副助詞とする。

☆ 「名詞句/で(道具格)/も」と解析できても、上の例のように「…でも…でも」という文型になっているときは、「でも」=副助詞という解釈が優先する。

*解説2

☆ 「…でも…でも」を並立助詞として採用しないのは、たとえば「と」のように

ねこさんと遊ぶ	→	と	
		格助	(いわば動詞が規定している。)
酒を飲むと人が変わる	→	と	
		接助	
トムとジェリー	→	と	
		並助	

といった守備範囲が顕著でなく、それよりもむしろ、

コーヒー <u>でも</u> のうか。	→	でも
		副助
子供 <u>でも</u> わかる。	→	でも
		副助
だれ <u>でも</u> できる。	→	でも
		副助

といった副助詞の機能のうちのひとつとみるからである。ゆえに、「…でも…でも」は並立助詞ではなく、副助詞「でも」の積み重ねとみる。

10-6 接続助詞

活用する語に付いて、その語と後にくる語との関係を示す。

(例)以下に列挙するもののみを認める。

バ、タラ、ナラ、モノナラ(モンナラ)、カラ、テ(デ)、ト、ナリ、ノデ、モノデ(モンデ)、ノニ、テモ(デモ)、トモ、タッテ(ダッテ)、トコロデ、ケレド(モ)、ケド(モ)、ガ、モノノ(モンノ)、モノヲ、トコロガ、ドコロカ、シ、ナガラ、ツツ、タリ(ダリ)。

(1)「ながら」

eg. 残念ながら → ながら
接助

*従来との相違点

☆従来はこういう「ながら」は新明解を参考に接尾辞としていた。

*解説

☆まず第一にこの「ながら」は吉本「日本語品詞の分類」で接続助詞としてのみエントリーしていること。次に学研でも、『名詞・副詞につく「ながら」は接尾語とする説もある』と注釈をつけながらも、接続助詞として扱っている。よって、接続助詞とする。(吉本「日本語品詞の分類」で接続助詞としてのみエントリーしているのは、接尾辞の用法を認めると境界での判断基準が曖昧になってしまうからである。)

(2)「じゃ」

eg. わかんないじゃないかって=わかんないのではないかって → じゃ
接助

*解説

☆「じゃ」という助詞は吉本「日本語品詞の分類」にはあげていなかったのだが、これは分割できないので(学研には連語とある)、新明解の記述を採用して接続助詞とする。

10.7 終助詞

文の終わりに位置して、話し手の気持ちを表す。

(例)以下に列挙するもののみを認める。

カ(用言に付加される場合)、ヤラ、ナ、ナア、ゾ、トモ、ヨ、ヤ、ワ、モノ(モン)、コト、ゼ、カシラ、ツケ、モノカ(モンカ)、ネ、ネエ、サ、ヨ、ノ。

ただし、「ノ」は「どこから来たの」のように単独で表れる場合のみ終助詞とする。「ノダ」「ノ德斯」「ノカ」という連鎖の中では準体助詞とする。

(1)終助詞に関して

文の最後にあらわれる助詞がすべて終助詞とはかぎらない。

eg. ... <u>なの</u> ですが。	→	が
		接助
... <u>なの</u> ですけども。	→	けれども
		接助

終助詞の「か」と副助詞の「か」の判断基準については10.助詞の10.4(2)を参照のこと。

*従来との相違点

☆これらは従来終助詞としていた。

*解説

☆吉本「日本語品詞の分類」ではこれらを終助詞としてエントリーさせていない。助詞と助動詞については吉本「日本語品詞の分類」にあげてあるもののみを採用するので、終助詞とはしない。また、倒置や省略を考えても『文の最後にあらわれる助詞がすべて終助詞とはかぎらない』ことは明らかであり、これらは、接続助詞の用法の一つで言いさしの形とみる。同じ様な例として、以下のようなものがある。

eg. 会社に悪 <u>くて</u> 。	→	て
		接助
買わなくて済む <u>んだから</u> 。	→	から
		接助

10.8.助詞その他

(1)形式名詞「もの」+*

eg. 負ける <u>もの</u> か!	→	ものか 終助
やれる <u>もの</u> なら、やってみな。	→	ものなら 接助
ろくに練習しなかつた <u>もの</u> で、みんなまけてしまった。	→	もので 接助
政権は維持した <u>もの</u> の、さきゆき苦しいと思われる。	→	ものの 接助

*解説

☆『もの+*』はひとまとまりで助詞あつかいしている。

*参考

☆学研では『もの+*』について以下のように説明している。

「ものか」	形式名詞「もの」+感動を表わす助詞「か」より
「ものなら」	形式名詞「もの」+指定の助動詞「だ」仮定形「なら」より
「もので」	形式名詞「もの」+格助詞「で」より
「ものの」	形式名詞「もの」+助詞「の」より

(2)「ては」

eg. 航空券に <u>関しましては</u>	→	て / は 接助 係助
------------------------	---	----------------

*従来との相違

☆従来は新明解に準じて

→	ては 接助
---	----------

としていた。

*解説

☆吉本「日本語品詞の分類」で認められていないし、学研にも<連語>としてエントリーしているので、切る。

(3)助詞の正規表現

助詞の正規表現はひらがなとする。

11. 接頭辞

11.接頭辞

他の基本となる構成要素に前接して単語を構成する造語成分。

(例) オ-〔御〕、ゴ-〔御〕、マ-〔真〕、ハツ-〔初〕、新-、
大-、総-、不-、無-、トリ-〔取〕、ヒキ-〔引〕。

(1)接頭辞の例

(あ)御/(社)
(か)各/(講師)
(さ)再/(確認)、新/(治療)、最/(先端)
(た)策/(一子)
(な)
(は)副/(党首)、弊/(社)
(ま)満/(一歳)、毎/(夏)
(や)
(ら)
(わ)

(2)接頭辞でない例

(あ)
(か)[仮/(登録)]
(さ)
(た)
(な)
(は)
(ま)[右/(旋回)]
(ら)
(わ)

以上、「接頭辞である/ない」の判断はすべて学研によった。(なお、(1)(2)は今後形態素解析作業マニュアルとして例を登録できるようにスペースをとっている。)

(3)辞書

{お、ご}のような接頭辞は辞書に他の語とひとまとまりでエントリーしていても切って意味がとおるものは切っている。

eg. お金 → お / 金
接頭 普名
不明瞭な点 → 不 / 明瞭 / な
接頭 形名 助動

cf. おかげさまで、進んでおります。

→ おかげ / さま / で
普名 接尾 格助 (「お/かげ」とすると、意味がなくなる。)
不明な点 → 不明 / な
形名 助動

大規模な改革をおしすすめている。

→ 大規模 / な
形名 助動

(この場合「大/規模」とすると「規模」という形容名詞でない名詞が出来てしまうので「大規模」は切らない。)

12.接尾辞

12.接尾辞

他の基本となる構成要素に後接して単語を構成する造語成分。意味を付け加えるだけで品詞を変えないものと、品詞を変えるものがある。

(例) 品詞を変えないもの

-sama〔様〕、-san、-chan、-kun、-shi、-den、-tachi、-domo〔共〕、-gata〔方〕、-ra〔等〕、-mai〔枚〕、-hon、-sanbon、-hi、-ban、-ya、-ni、-sei

品詞を変えるもの

サ (形容詞・形容動詞→名詞)
ガル (形容詞・形容動詞→動詞)
ラシイ、ツポイ (名詞→形容詞)
ツポイ、ヤスイ〔易イ〕、ニクイ〔難イ〕 (動詞→形容詞)

[削除]以下は今回削除されたもの。

従来、品詞を変える接尾辞として

的ダ (名詞→形容動詞)

をあげていたが、形態素解析作業時に統一的に扱えていなかった。今回「[~的/ダ]」と統一することにしたので(参照: 1. 名詞の1.3(2))、接尾辞のエントリから削除することとした。

(1)活用する接尾辞

活用する接尾辞として注意が必要なものに「ばむ」「やすい」「にくい」「がる」「たがる」などがある。

◆「ばむ」

eg. 汗ばむ	→ 汗	/	ばむ
	普名		接尾
気色ばむ	→ 気色	/	ばむ
	普名		接尾

*解説

☆「汗ばむ」「気色ばむ」は見出し語、または派生語として新明解に出ているが、「ばむ」の造語性を尊重して(productiveであるかどうかにより判断して)接尾辞の活用とみて分割する。

◆ 「やすい」と「にくい」

eg. わかりやすい → (わかり) / やすい
 本動 接尾
 わかりにくい → (わかり) / にくい
 本動 接尾

*従来との相違

☆従来は形容詞としていた。

*解説

☆これらは助動詞のような文法的色彩は帯びておらず、意味を添える接尾辞である。(参考:3.形容詞(1))

◆ 「がる」「たがる」

eg. 私は暑がりです。 → がり …… がり
 接尾 接尾 (「がる」は形容詞の語幹、形容
 名詞、普通名詞につく。)

鯨屋の職人はへらず口をききたがる人間が多い。

→ た / がる
 助動「たい」語幹 接尾

*従来との相違

☆「たがる」は新明解に助動詞とされているので、助動詞としていた。

*解説

助動詞、助詞は原則として吉本「日本語品詞の分類」で採用しているもの及びこのマニュアルで新たに採用したもののみを認めることとする。新明解で外に助動詞、助詞がでてきても、すぐに採用せず、参考に学研を見る。そこでもなお、助詞、助動詞としていた時はATR担当者の判断で採用を決める。学研に違う品詞でのせてあれば、特に矛盾がない限り、学研に従う。上の例の場合は学研の説明を参考にした。このように解析すると既出の単語で分割できる。

(2) 「しだい」

eg. 確認できしだい → 確認 / (でき) / しだい
 サ名 補動 接尾

*従来との相違

☆従来は名詞としていた。

*解説

☆上の例の「しだい」は補助動詞・連用形の後なので、名詞とはマークしがたい。新明解には{(名詞)接続助詞的}とあるが、文法的な機能語である助詞及び助動詞は原則として吉本「日本語品詞の分類」(及びこのマニュアル)にあげたものに制限する方針をとっている。そこで、学研の接尾辞とする解釈をとる。

(3)「さ」

「～さ」は新明解のエントリーにはよらず、統一的に切ることとする。

eg. 私は子供のがんばりとやさしさや思いやりに胸が熱くなり、思わず目頭をおさえた。

→ (やさし) / さ
形容・語幹 接尾

あなたには彼女のよさが分かっていない。

→ よ さ
形容・語幹 接尾

但し、「よさ」「なさ」については形容詞の語幹形の場合もあるので注意が必要である。(参考:3.形容詞(3))

eg. 京都観光がよさそうですね → よさ / そうです
形容・語幹 助動

*解説

☆吉本「日本語品詞の分類」9ページ(この章初めの枠内の例)にあがっている、「品詞を変える接尾辞」の扱いをこのマニュアルではすべて分割する方針をとっているから、「～さ」についても統一をとった。

(4)数量表現が出てきたら…

数詞とそれに相当する語(例えば「何人」というときの「何」など)のあとは接尾辞とする。また、数量表現の解析には次の2タイプを基本とする。(参照:1.名詞の1.5(1))

- 1.数詞+接尾辞
- 2.接頭辞+*+接尾辞

eg. 五世紀 → (五) / 世紀
数詞 接尾 *1のパターン

数世紀 → (数) / 世紀
接頭 接尾 *2のパターン

数十世紀 → (数 / 十) / 世紀
接頭 数詞 接尾 *2のパターン

cf. 数日前 → 数 / 日 / 前
接頭 接尾 普名 *2のパターン+「前」と考える。「前」が(学研によると)接尾辞ではないので、このようになる。

なお、単位については1.名詞の1.5(2)(3)を参照のこと。

(5)接尾辞の例

- (あ) (100)/円(参考:1.名詞の1.5(2))、(先生)/宛
- (か) (美食)/家、(左傾)/化、(監視)/下、(最終)/回、(ATR)/外、
(半年)/間、(ビル)/群、(ブロック塀)/越し、(間)/柄、
(コピー)/機
- (さ) (発表)/者、(学校)/中、(強制収容)/所、(申込)/書、(育児)/上、
(時代)/性、(大学)/生、(日本)/製、(パンフレット)/状、
(登録)/証
- (た) (鼓笛)/隊、(たいこ)/台、(子供)/たち、(選挙運動)/中、
(七日)/付(辞書にはない)、(二)/通り、(両言語)/共、
(従来)/通り、(ライト)/付、(出)/展
- (な) (会場)/内、(身元引受)/人
- (は) (急進)/派、(二)/倍、(政治)/犯、(活動)/費、(五)/匹(前後)、
(都心)/部、(対象)/物、(一人)/分、
- (ま) (四年)/目、(二)/名、(今週)/末、(小さ)/目
- (や) (同時通訳)/用
- (ら) (原生)/林、(機械)/類
- (わ)

(6)接尾辞でない例

以下の例は接尾辞でなく普通名詞である。

- (あ) [(子育て)/以外]、[(生息)/域]、(見本)/市
- (か) [(主犯)/格]、[(事務局)/側]、[(郵便)/局]、[(借入)/金]、
[(四年)/後]、[(説明)/会]、[(できる)/限り]
- (さ) [(緩和)/策]、[(それ)/自体]、[(五匹)/前後]、[(推測)/数]、
[(会議)/場]、[(外務)/省]、[(私)/自身]、[(論文要旨)/集]、
[(研究)/室]
- (た) [(一等)/地]
- (な)
- (は) [(倍)/(の大きさ)]、[(値下げ)/幅]、[(ブロック)/塀]、
[(治療)/法]、[(自分)/本位](接尾辞的用法)、[(木曜)/日]、
[(一級)/品]、[(挨拶)/文]
- (ま) [(四年)/前]、[(食事)/面]
- (や)
- (ら) [(家庭)/欄]、[(得票)/率]、[(登録)/料](多く接尾辞的)
- (わ)

以上、「接尾辞である/ない」の判断はすべて学研を参考にして決めた。(なお、(5)(6)は今後形態素解析作業マニュアルとして例を登録できるようにスペースをとっている。)

13. 其他

13.その他

(1)読みの欄について

(a)読みはひらがなを基本とする。

eg. 大使館

→ 大使館	たいしかん	大使館	普名
自動翻訳電話研究所			
→ 自動翻訳電話研究所	じどうほんやくでんわけんきゅうしょ	自動翻訳電話研究所	固名

(b)カタカナと英字はひらがなに直さない。

eg. フランス

→ フランス	フランス	フランス	固名
--------	------	------	----

ATR

→ ATR	ATR	ATR	固名
-------	-----	-----	----

フランス大使館

→ フランス大使館	フランスたいしかん	フランス大使館	固名
-----------	-----------	---------	----

ATR自動翻訳電話研究所

→ ATR	ATR	ATR	固名
自動翻訳電話研究所	じどうほんやくでんわけんきゅうしょ	自動翻訳電話研究所	固名

(c)複数の読みが考えられるもの(【私】「わたくし」「わたし」、【方】「ほう」「かた」など)については文脈で判断する。文脈で判断出来ないものは新明解に従う。ただし、電話会話は発音もデータであるので、今後読みはオリジナルの発音に従う。

(d)記号は「読みなし、正規表現なし」である。(参考:13.その他(6))

(2)正規表現の欄の表記

(a)正規表現は新明解を基本とする。

(b)固有名詞の場合は

データにあわせる。

(データが漢字なら漢字、

データがひらがなならひらがな、

データがカタカナならカタカナを正規表現とする。)

(c)感動詞の場合は

データが漢字・ひらがなならひらがなを正規表現とする。

データがカナならカナを正規表現とする。

(d)間投詞の場合は

データが漢字・ひらがなならひらがなを正規表現とする。

データがカナならカナを正規表現とする。

(e) 補助動詞と助動詞と助詞の場合は
正規表現はひらがなとする。

(f) 記号の場合は
「読みなし、正規表現なし」である。(参考:13.其の他(6))

*従来との相違

☆従来は助動詞のみひらがなで、補助動詞と助詞は新明解の見出し語表記を採用していた。

*解説

☆辞書によっていると、ひらがなで入力するときと漢字で入力するときがあるが、補助動詞は「意味がうすい」という定義からいっても漢字を正規表現とするのは直感にあわない。また、助詞についても、同様の理由でひらがなに統一することとした。

(g) 送りがなのゆれは表記しない。

(h) 「我々」というような時の「々」は採用しない。

eg. 我々 → 我々 われわれ 我我 代名 -- --

(i) 新明解中の「…とも書く」「…は借字」「…と書く向きもある」「古来の用字は…」「…などと書く」等の漢字に関する記述は採用しない。

eg. よく 「能く・善く・良くとも書く。また打ち勝つ意味では克くとも書く」
それぞれ 「其其・夫夫とも書く」
すばらしい 「素晴らしいとも書く」
ちょうど 「丁度は、借字」
まさか 「真逆と書く向きもある」
いきさつ 「古来の用字は、経緯」
あくび 「欠欠伸などと書く」

但し、「普通…と書く」という記述は従来採用しており、(変更するには量が多いため)採用することにする。(勿論、見出し語に漢字がある時にはそちらを正規表現とする。)

eg. あした 「普通、明日と書く」
いかが 「普通、如何と書く」

頻出する「こ、そ、あ、ど」の正規表現については以下のように統一することとしている。

これ〔此〕	この〔此〕	こちら〔此方〕	ここ〔此处〕	こう〔こう〕
それ〔其〕	その〔其〕	そちら〔其方〕	そこ〔其処〕	そう〔そう〕
あれ〔彼〕	あの〔彼〕	あちら〔彼方〕	あそこ〔彼処〕	ああ〔ああ〕
どれ〔何〕	どの〔何〕	どちら〔何方〕	どこ〔何処〕	どう〔どう〕

(j) 正規表現の欄における訂正

正規表現で訂正するものに以下のようなものがある。

eg. なきゃ → なきゃ なきゃ ない 助動

ただし、以下のものは訂正しないことに注意。

eg. 思いっ切り → 思いっ切り おもいきり 思いっ切り 副詞
 だあれ → だあれ だあれ だあれ 代名
 じゃあ → じゃあ じゃあ じゃあ 接続
 (はなして)る → る る る 補動 特殊

(本来「いる」と同じく上一段なので変則といれるところだが、システム上の問題を解決するため特殊といれる。)

*従来との相違

☆従来は辞書にある形にするため以下のように訂正していた。

eg. 思いっ切り → 思いっ切り おもいきり 思い切 副詞
 だあれ → だあれ だあれ 誰 代名
 じゃあ → じゃあ じゃあ じゃ 接続
 (はなして)る → る る いる 補動

*解説

☆これらは読み手によるバリエーションであるので、このデータは尊重して正規表現の欄では訂正しない。(参考:13.その他(1))ただし、最初にあげた「なきゃ」(←「なけれ+ば」)のように活用部位に直接関係しその一部分だけが変化しているときは訂正をほどこす。

(3)異形態について

異形態は正規表現の欄で統一する事も考えられるが、現在は

「の」と「ん」
 「た」と「だ」
 「て」と「で」
 「たり」と「だり」
 「たら」と「だら」
 「もの」と「もん」

などは、それぞれ別の正規表現として扱っている。

eg. 参加したいのですが、 → の の の 準助
 参加したいんですが、 → ん ん ん 準助
 読んだり聴いたりできます。 → だり だり だり 並助
 読んだり聴いたりできます。 → たり たり たり 並助

(4)活用型の欄について

- ◆ 特殊型といれるのは、「下さる」「ございます」のように活用が不規則な動詞である。詳しくは2.動詞の2.1(1)を参照のこと。
- ◆ 変則型といれるのは、「居る」「見る」のように活用上、語幹が活用に含まれるものである。(多くはいわゆる「上一段」活用)

活用型	例語	語幹	未然形	連用形	終止形	連体型	仮定形	命令形
変則	居る	(居)	い	い	いる	いる	いれ	いろ いよ
変則	見る	(見)	み	み	みる	みる	みれ	みろ みよ
上一	試みる	こころ	み	み	みる	みる	みれ	みろ みよ
上一	起きる	お	き	き	きる	きる	きれ	きろ きよ

(5)疑問詞の扱い

いわゆる疑問詞の扱いは以下の表の通りに統一する。なお、斜線の部分は参考のために載せた学研及び新明解での扱いである。

疑問詞	品詞	+か	学研		新明解	
			品詞	「+か」エントリの有無	品詞	「+か」エントリの有無
どの どんな	連体詞 〃	—	連体詞 形容動詞 ^{*1}	— —	連体詞 連体詞	— —
どうして なぜ どう いかが	副詞 〃 〃 〃	副詞+副助詞 〃 〃 〃	副詞 副詞 副詞 副詞形容動詞	— — — —	副詞 副詞 副詞 副詞	— — — —
いつ だれ どこ どれ どちら なに(なん)	代名詞 〃 〃 〃 〃 〃	副詞 代名+副助 〃 〃 〃 副詞*2 代名+副助*2	代名詞 代名詞 代名詞 代名詞 代名詞 代名詞	+ (副詞) — + (連語) — — + (連語 副詞)	代名詞 代名詞 代名詞 代名詞 代名詞 代名詞	+ (副詞) + (代名詞) + (代名詞) + (代名詞) — + (代名詞 副詞)
なんら いくら	副詞(分けても意味がないので)	副詞+副助詞 副詞	副詞 名詞 副詞	+ (連語) + (名詞 副詞)	副詞 副詞	+ (副詞) + (副詞)
^{*3} いく/つ いく/ど いく/たび	接頭+接尾 〃 〃	接頭+接尾+副助 〃 〃	名詞 名詞 名詞 副詞	— — —	副詞 — —	— — —

*1 : 体言に続く時は語幹がそのまま用いられるため連体詞とする説もある(学研)

*2 : 「なにか」が一語で「副詞」となるのは、『どことなく。どうしてか。なぜか。なんか。』等の意味のとき。また、「代名詞+副助詞」となるのは『任意の物・事、また、不定の物・事をさす』とき。(いずれも学研より)

eg. なにかさみしい → なにか
副詞
水か何かちょうだい → 何 / か
代名 副助

*3 : これらは数詞+接尾辞のパターンにあわせた。

また、上の基本単位に格助詞や係助詞等がついて全体で副詞的に働いているものが多い。

eg. どうしても私ども知りたいと思っているのはですね。 → どうして / も
副詞 係助
一体いつまでにスペースが確保されているか。 → いつ / まで
代名 格助
何もかもあなたのせいよ。 → 何 / も / か / も
代名 係助 代名 係助
類似例に「何やかや」「誰も彼も」
などがある。

(6)記号について

(a) 記号については「よみなし、正規表現なし」である。

(b) 記号と数詞がペアで出てきたら…(参考:1.名詞の1.5(2))

1.数詞の前に単位があるとき。

eg. us\$100	→	us\$	—	—	記号
		100	ひゃく	100	数詞
¥100	→	¥	—	—	記号
		100	ひゃく	100	数詞

2.数詞の後に単位があるとき。

eg. 100%	→	100	ひゃく	100	数詞
		%	—	—	記号

3.日付、時刻に記号が使われていて正確に一つ一つの読みを確定することができないときはコメント欄を利用する。

eg. 10/27	→	10	じゅう	10	数詞	date(じゅうがつ)
		/	—	—	記号	
		27	にじゅうなな	27	数詞	date(にじゅうななにち)
10:27	→	10	じゅう	10	数詞	time(じゅうじ)
		:	—	—	記号	
		27	にじゅうなな	27	数詞	time(にじゅうななふん)

ただし、上の1,2,3は原則として電話会話には現れない。電話会話の書き起こしでは記号をなるべく使用しないようにしているからであり、例えば上の例は以下のようになる。

eg. 100アメリカドル	→	100	ひゃく	100	数詞
		アメリカドル	アメリカドル	アメリカドル	接尾
cf. <u>アメリカドル</u> で	→	アメリカ	アメリカ	アメリカ	固名
		ドル	ドル	ドル	接尾
eg. 100円	→	100	ひゃく	100	数詞
		円	えん	円	接尾
100パーセント	→	100	ひゃく	100	数詞
		パーセント	パーセント	パーセント	接尾
10月27日	→	10月	じゅうがつ	10月	普名
		27日	にじゅうななにち	27日	普名
10時27分	→	10	じゅう	10	数詞
		時	じ	時	接尾
		27	にじゅうなな	27	数詞
		分	ふん	分	接尾

*従来との相違

☆従来は以下のようにしていた。

us\$100	→	us\$	us\$	us\$	接頭
		100	ひゃく	100	数詞
100%	→	100	ひゃく	100	数詞
		%	%	%	接尾

*従来との相違(続き)

10:27	→	10	<u>じゅう</u>	10	数詞
		:	<u>じ</u>	—	記号
		27	<u>にじゅうななふん</u>	27	数詞

*解説

☆従来は数詞+接尾辞のパターンと記号の扱いが明確に区別されていなかった。

\$、%はいずれも記号であるので、今回他の記号と足並みをそろえた。また、10:27では27の読みを「にじゅうななふん」とするのは無理があるし、そうしたとして「にじゅうななふん」を数詞とするのもさらに無理があるので、読みにはその数詞自身の読みを与えることに統一した。そして、『日付、時間ある記号を伴って特殊な読み方をする数詞』はコメント欄にその読みを記入することとした。

(7)語幹の扱い

語幹も活用形のうちの一つであると考え。 (形容詞の語幹形については3.形容詞(3)も参照のこと。)

eg. 政治家の勝手な行動を許さぬよう厳重に監視せねばならない。

→ よう よう ようだ 助動 語幹

何か特別の資格みたいのが要るんでしょうか。

→ みたい みたい みたいだ 助動 語幹

仕事の都合で参加できそうもないことが最近になって分かりました。

→ そう そう そうだ 助動 語幹

(8)文語の扱い

口語文法でカバーできない「べし」等は文語の助動詞を引用するが(参考:9.助動詞(6))、ATRで扱っているものは口語材料なので、文語の解釈をみだりに増やさない方針をとることにする。

eg. 直ちに廃止 <u>す</u> べきだ。	→	す	/	べき
		(文語)助動「す」終止		(文語)助動「べし」連体
課税 <u>せん</u> とする。	→	せ	/	ん
		(文語)助動「す」未然		(文語)助動「ん」終止

(9)「こ、そ、あ、ど」のつく語の扱い

「こ、そ、あ、ど」のつく語は接続詞の場合を除いて切る。

eg. それでも	→	それ	/	で	/	も
		代名		格助		係助
それから	→	それから				
		接続				

「こう、そう、ああ、どう」の場合は接続詞であっても切る。

(参考:6.接続詞(1))

(10)比較的複雑な解析例

参考のため、以下に比較的複雑な解析例をあげる。

1. 計画を変更しなければならなくなったので、ご連絡申し上げます。

→ 変更 / し / なけれ / ば / なら / なく / なっ / た
サ名 補動 助動 接助 本動 助動 本動 助動

2. お送り先はラッツ様でよろしいでしょうか。

→ お / 送り / 先 …… で
接頭 普名 普名 格助

cf. ラッツ様がよい

→ が
格助

3. 参加できなくなってしまったのです。

→ 参加 / でき / なく / なっ / て / しまっ / た
サ名 補動 助動 本動 接助 補動 助動

4. どうすれば電話番号を知ることができますか。

→ 知る / こと / が / でき / ます / か
本動 普名 格助 本動 助動 終助

5. おうかがいできますか

→ お / うかがい / でき / ます / か
接頭 本動 補動 助動 終助

6. 学び取らねばならない。

→ 学び / 取ら / ね / ば / なら / ない
本動 補動 助動 接助 本動 助動

7. 出席していただけませんか。

→ ませ / ん / でしょ / う / か
助動 助動 助動 助動 終助

8. 勉強は好きでも運動は苦手な子

→ 勉強 / は / 好き / でも / 運動 / は / 苦手 / な / 子
普名 係助 形名 副助 普名 係助 形名 助動 普名

9. できるだけ早くですね、そのあたりのお返事をいただきたいんですが。

→ 早く / です / ね
形容 助動 終助

*この場合、「ですね」は間投詞的に挿入されているだけであり、取り去っても意味は同じである。

cf. 早くしてください。

→ 早く
形容・連用

10. 大阪大学工学部教授の山田先生

→ 大阪大学 / 工学 / 部 / 教授 / の / 山田先生
固名 普名 普名 普名 格助 固名

*固有名詞は長単位分割、普通名詞は短単位分割とする。

cf. 大阪市長

→ 大阪市長
固名

形態素解析の際によりどころとする辞書は、基本的には新明解である。(新明解については、「統一的な扱いがなされていないところがある」「完全に階層化されていない」などの問題点も指摘されているが、人間が使う辞書としては一定の評価を得ている。また、そもそも現在完全な辞書を望むことは不可能であるともいえるし、少なくともこの辞書をもとにして解析している以上これを無視することは非現実的であると考えられる。)

「新明解でカバーできない部分を学研で補う」というのが建前だが、実際には優先順位は

1. 吉本「日本語品詞の分類」(及びこのマニュアル)
2. 学研
3. 新明解

の順としている。この矛盾から、どのような時に学研を採用し、どのような時に新明解を採用するのか、という疑問が当然生じてくる。そこで、簡単にではあるが、どの場合にどちらの辞書解釈を優先するかを以下に記しておく。

- | | | |
|---------------------------|--------|---------------------------------------|
| ◆ 正規表現はどんな字を書くのか?..... | 新明解 | |
| ◆ データの字は見出し字か?..... | 新明解 | |
| ◆ この漢字の読みかたは?..... | 新明解 | |
| ◆ おくりがなはどこまでか?..... | 新明解 | |
| ◆ この(複合)名詞は一語としていいのかな?... | 新明解 | |
| ◆ この(複合)動詞は一語としていいのかな?... | 新明解 | |
| ◆ この複合名詞は見出し語であるのかな?... | 新明解 | (もちろん見出し語となっても接頭辞、接尾辞のつく「お金」等は採用しない。) |
| ◆ この複合動詞は見出し語であるのかな? | 新明解 | |
| ◆ この語は名詞?それとも副詞?..... | 新明解 | |
| ◆ これは接頭辞かな?..... | 学研 | |
| ◆ これは接尾辞かな?..... | 学研 | |
| ◆ 文法事項で分かりにくいんだけど..... | 学研を参考に | (新明解はダメ) |

上にあげた以外に、例えば、品詞の確認、サ変名詞の確認等は新明解を信じすぎないこと。吉本「日本語品詞の分類」(及びこのマニュアル)の方針を重視して、時には学研もあわせてひいて比べ、どちらがATRの方針にあうか考えてみることも大切である。以下に新明解によらない場合をあげておく。

- ◆ 固有名詞、サ変名詞、形容名詞の認定(1.名詞の1.1,1.2,1.3)
- ◆ 数量表現(1.名詞の1.5(1))
- ◆ 住所(1.名詞の1.7(1))
- ◆ 外来語カナ表記の解析(1.名詞の1.7(2))
- ◆ 転成名詞の扱い(1.名詞の1.7(4))

- ◆特殊、変則活用(2.動詞の2.1(1),3(3),13(4)(5))
- ◆動詞+助動詞で立項している分は無視(2.動詞の2.1(2)(3))
- ◆補助動詞の判定(2.動詞の2.2)
- ◆尊敬表現(2.動詞の2.3(1))

- ◆補助形容詞の扱い(3.形容詞(1))
- ◆「ない」の扱い(9.助動詞(1) , 3.形容詞(2))

- ◆「に/と」のつく副詞(4.副詞(2))
- ◆「初めて」(4.副詞(2))

- ◆「こう、そう、ああ、どう」のつく語(5.連体詞(2))
- ◆「こ、そ、あ、ど」のつく語(13.其の他(4))
- ◆名詞、動詞以外で辞書にない語の解析(4.副詞(2)、5.連体詞(2)、6.接続詞)

- ◆助詞、助動詞の認定 (原則として増やさない。増やす時は担当者に確認をとる。)

- ◆接頭辞、接尾辞の認定(学研による。)
- ◆接頭辞、接尾辞のついた語の解析(11.接頭辞(3))

その他、新明解では連語と名詞の表記が同じであり、区別されていないということにも注意しなくてはならない。

☆付録1 <補助動詞の洗い出し>

「付録1」では吉本「日本語品詞野分類」にあがっている補助動詞を以下のように分類し、学研による洗い出しを行った。

- (1) 「動詞+テ」「助動詞+テ」に続くもの。
- (2) 動詞の連用形に続いて意味を添えるもの。
 - [方] 方向性に関するもの
 - [程] 程度の強調に関するもの
 - [成] 成否・過不足に関するもの
 - [ア] アスペクトに関するもの

以下は学研による品詞等を示す記号である(特に指定がないときは補助動詞)。この品詞分類は実際の作業では無視し、全て補助動詞とする。

<本動>	:	本動詞
<補動>	:	補助動詞
<尾>	:	接尾辞

補助動詞の追加については本マニュアルの以下の部分を参照のこと。

- ★1.名詞の1.2(1)
- ★2.動詞の2.2(2)(3)(4)

<あ>

あがる

- (2) [方] /うかびあがる/とびあがる/
- [程] <尾> のぼせあがる
- [ア] <尾> そめあがる

あげる

- (1) <補動> やってあげる
- (2) [方] /つみあげる/ひろいあげる/
- [程] /よみあげる/
- [ア] <尾> 彼は二年の刑期をつとめあげたとはいえ

あう

- (2) [方] <尾> [連用形について] 男と妻とは愛し合って結婚した

ある

- (1) そこにおいてある
我輩は猫である

あわせる

(2) [方] /ぬいあわせる/

あやまる

(2) [成] /みあやまる/

あぐむ

(2) [成] <本動> どうしてよいか困る[多く動詞連用形につけて使う]

たずねあぐんだ、女の中の女

あぐねる

(2) [成] <本動> どうしたらよいか困る[多く動詞連用形につけて使う]

思いあぐねた結果

いる

(1) <補動> いましている

(2) [方] /せめいる/たちいる/

[程] <尾> 念じいる、寝入る

いく

(1) <補動> 生きて行く

いれる

(2) [方] /うけいれる/ひきいれる/

いただく

(1) <補動> やらせていただきます

うる

(2) [成] <尾> [動詞のうしろについて] かきうる

おく

(1) <補動> おいておく

おとす

(2) [方] /切り落とす/

[成] /ききおとす/口説き落とす/

おわる

(2) [ア] <尾> [動詞連用形について] よみおわる

おえる

(2) [ア] /しおえる/

<か>

かかる

- (2)[方] <尾> [動詞連用形につく] 攻めかかる、もたれかかる
[ア] <尾> [動詞連用形につく] はげかかっている

かける

- (2)[方] <尾> [動詞連用形につく] はなしかける
[ア] <尾> [動詞連用形につく] ぬぎかけました

かえる

- (2)[方] いきかえる /
[程] <尾> [動詞連用形について] しずまりかえっていた

かえす

- (2)[方] <尾> [動詞連用形について五段動詞をつくる] といかえした

かねる

- (2)[成] <尾> [動詞連用形について] まちかねたように

きる

- (2)[程] <尾> 苦りきった三田が
[ア] <尾> 坂をのぼりきると

くる

- (1) <補動> ビートルズがやってくる

くれる

- (1) <補動> してくれる

くださる

- (1) きつと来てくださる

こむ

- (2)[方] <尾> [動詞連用形について] 誘い込む、迷い込んで来た
[程] <尾> [動詞連用形について] 眼り込む

こめる

- (2)[方] /おしこめる/とじこめる/

<さ>

さしあげる

- (1) <補動> 案内してさしあげる

しぶる

(2) [成] <動詞> [接尾語的にも使う] 出し渋る

すぎる

(2) [成] <尾> 働きすぎて病気になる

すごす

(2) [成] <尾> [動詞連用形について] やりすごす

そんじる

(2) [成] <尾> [動詞連用形について] 太刀を受け損じて

そこなう

(2) [成] <尾> [動詞連用形について] うちそこなう

そこねる

(2) [成] 動詞の用法のみ、該当記述なし。

そびれる

(2) [成] <尾> [動詞連用形について下一段活用動詞をつくる]
寝そびれてしまった

そめる

(2) [ア] <尾> [動詞連用形につけて下一段動詞をつくる] 梅が咲きそめた

<た>

だす

(2) [方] <尾> [動詞連用形について] てらしだしていた

[ア] <尾> [動詞連用形について] ぐれだした

たつ

(2) [程] /勇み立つ/

たてる

(2) [程] <尾> [動詞連用形について] はやしたてた

たりる

(2) [成] /あきたりる /備ち足りる/

ちがえる

(2) [成] /とりちがえる/

ちがう

(2) [成] /入れ違う/

つく

(2)[方] くらいつく/にげつく/とびつく/

つける

(2)[方] はびつける/よせつける/

[程] <尾> [動詞連用形について] しかりつける

[ア] <尾> [動詞連用形について] あるきつけている道

cf.決定づける

つくす

(2)[程] <尾> [動詞連用形について]

「純粹の子供か、あらゆる男児に接し尽くした婦人でなければこうは出られない。」

つづける

(2)[ア]<尾> [動詞連用形につけて] 春の歌を唱いつづけている。

でる

(2)[方] ルヤシャリでる/ぬけでる/

とおす

(2)[ア] <尾> [動詞連用形について] 書室へこもりとおしていた

<な>

なおす

(2)[ア] <尾> [動詞連用形について] 座りなおした

なれる

(2)[ア] /使いなれる/(<動詞> 使いなれた万年筆)

ぬく

(2)[程] <尾> [動詞連用形について] 「初江も新治に惚れぬいとるがな」

[ア] <尾> [動詞連用形について] 苦しみぬいて

のこす

(2)[成] いいのこす/思いのこす/

<は>

はてる

(2)[程] <尾> [動詞連用形について下一段活用動詞をつくる]

魂の抜け果てたその顔は

はじめる

(2)[ア] <尾> [動詞連用形について下一段活用動詞をつくる]

<ま>

まくる

(2) [程] <尾> [動詞連用形について] 泳ぎまくった

まちがう

(2) [成] /まかりまちがう/

まちがえる

(2) [成] /みまちがえる/

まわる

(2) [方] <尾> [動詞連用形について] うごきまわる

まわす

(2) [方] <尾> [動詞連用形について] ながめまわす

みる

(1) <補動> 試してみる

もらう

(1) <補動> 持ってきてもらう
cf.可能動詞形「もらえる」
困った人のために役立ててもらえたら

<や>

やる

(1) <補動> 何としてでもやってやる
<尾> [動詞連用形について]
1.完了の意興奮がさめやらずに[多く打ち消しの形で使う]
2.遠くまで及ぼす意を表わす
うらやましそうに眺めやった

<わ>

わたる

(2) [方] <尾> [動詞連用形について五段動詞をつくる] さえわたっている

わたす

(2) [方] <尾> [ある種の動詞連用形について五段動詞をつくる]

ながめわたす

わすれる

(2) [成] /おき忘れる/

☆付録2 <助詞の整理>

「付録2」中の省略符号の意味は以下の通りである。

- [格] 格助詞
- [準] 準体助詞
- [係] 係助詞
- [副] 副助詞
- [並] 並立助詞
- [接] 接続助詞
- [終] 終助詞

なお、この付録2の最後の表は助詞の接続表である。

助詞の追加

(1)複合格助詞

従来の「として」「において」「における」「について」に足して、「にしる」「にせよ」「にとって」「でもって」「をもって」を認める。(参考:10.助詞の10.1(1))

(2)その他

- 「なら」 (参考:9.助動詞(4))
- 「にて」 (参考:10.助詞の10.3(2))
- 「なんか」 (参考:10.助詞の10.4(3))
- 「じゃ」 (参考:10.助詞の10.6(2))
- 「ごと」 (参考:10.助詞の10.4(3))

<か>

か

[副] {文語では係助詞}{いろいろな語につくが、多くは疑問を表す語につく。文語では文末の活用語を連体形で結ぶ(係結び)}

だれか来て!

なぜか抹茶がうまい。

のみか。

ばかりか。

[終] {体言および活用語の終止形につく。「だ」には疑問を表す語句のあとにきた場合にだけつく}

それは本当でしょうか。

そいつはあやしんじゃないかと思う。(自問の「か」)

どれくらいあるか教えて。(答えが予想されるようなものは終助詞)

が

[格] {体言または体言扱いのものにつく}

私が水野です。

わめくが早い

(「わめく」は終止形。ただし、「..が早い」の形のときのみ)

人の心を豊かにするが故に..(「する」は連体形)

[接] {口語では活用語の終止形に、文語では連体形につく。格助詞「が」から転じたもの}

年はとったが、まだまだ気は若い。

かしら

[終] {自問をあらわす助詞「か」に「知らん」のついた形「かしらん」がつづまって一語化した形}

そんなことあるのかしら。

から

[格] {体言または体言あつかいのものにつく。下に方向性あるいは始発性を含む動詞・助動詞を伴う}

A地点からB地点まで500kmです。

[接] {文語では活用語の連体形に、口語では主として終止形につく}

明日はテストだから今日は寝ないで勉強する。

きり

[副] {名詞「切り(=際限)」から転じたもの。「ぎり」「っきり」ともいう。きわめて口語的。体言及び活用語の連体形につく}

あれっきり帰ってこない。

くらい(ぐらい)

[副] {名詞「くらい(位)」から転じたもの}

あの人くらい頭のよい人はちょっといない。

自分でも不思議なくらい心に余裕ができました。

けど(も)

[接] →「けれども」

好きだけど知らない。

けれど(も)

[接] {古典語の接続助詞「ども」の上に形容詞の已然形の語尾「けれ」がついて一語化したもの。活用語の終止形につく。くだけたスタイルでは「けれど」「けど」「けども」ともなる}

お酒も飲むけれど、甘いものも好きなんです。

こそ

[副] {文語では係助詞}

君こそ男の中の男だ。

こと

[終] {事と同語源}{同僚または目下の人に向かって話すときに使う女性語}

あら大変だこと。

< さ >

さ

[終] {男性用語。主として文の終止する形につくが、述部動詞の略された形で体言あるいは体言あつかいのものにもつく}{引用をあらわす「と」「て」について慣用句的に用いられる}
そんなの平さ。

さえ

[副] {「そへ(添)」が原義という。活用語の連用形および種々の語につく}
そばにいてくれさえすればいい。

し

[接] {活用語の終止形につく。元来、文語形容詞語尾「し」が離れて助詞になったもの}
頭もいいし、気だてもいい。

しか

[副] {「ほか」の転という。体言または体言あつかいのもの、動詞の連体形、形容詞・形容動詞の連用形、格助詞などにつき、いつも打ち消しの「ない」を伴い「AしかBしない」の形で用いられる}
お茶しかないけどいい?

ずつ

[副] {分量を表す語につく}
ひとり一個ずつですよ。

すら

[副] {種々の語につく}
仕切りすらないようなすごい便所が中国にはよくある。

ぜ

[終] {終助詞「ぞ」に終助詞「え」のついた「ぞえ」がつづまってできた形。親しい間柄でのくだけた表現に用いられる男性用語。活用語の終止形につく}
心が寒いぜ。

ぞ

[終] {文語では体言あるいは活用語の連体形などにつく}{口語では男性用語。活用語の終止形につく}
おばけだぞー。

< た >

だけ

[副] {名詞「たけ(丈)」から転じたもの。つく語によって「たけ」「ったけ」とも。体言、活用語の連体形、および一部の格助詞につく}

あなただけよ。

たって(だって)

[接] {完了の助動詞「た」に接続助詞「とて」のついた形「たとて」の転}{活用語の連用形につく。ガ行イ音便、ン音便の形には「だって」の形につく}{「…と言ったって」の略された形。「ったって」の形をとることが多い。引用された語句や文につく}

いくら謝ったって許してあげない。

死んだって忘れない。

だって

[副] {指定の助動詞「だ」の終止形に副助詞「とて」のついた形「だどて」が音声的に変化した形。体言あるいは体言あつかいのものにつく}

先生だって人間なんだからいろいろあるわよ。

たの(だの)

[並] (だの){指定の助動詞「だ」に助詞「の」がついた形。体言あるいは体言あつかいされたものにつく。普通には「AだのBだの」の形で用いるが、「など」がつく場合には最後のものは略して用いない}

やれ本だの服だのお金がいくらあっても足りやしない。

たら

[接] {過去の助動詞「た」の仮定形}

一目みたらすぐ分かった。

たり(だり)

{完了の助動詞「たり」の助詞化したもの。活用語の連用形につく。ガ行イ音便あるいはン音便の動詞には「だり」の形につく}

[並] お父さん、行ったり来たりさっきから何やってるんですか。

[接] いたずらしたりしちゃいやよ。

つけ

[終] 彼の名前は言ったつけ。

ったら

[係] {格助詞「と」に、「言う」の連用形「いっ」及び完了の助動詞「た」の仮定形「たら」がついた「といたら」が変化したもの。人あるいは人間生活になじんでいる動物を呼ぶ名詞につく}

お母さんったらいやあねえ。

つつ

[接] {活用語の連用形につく}

とかなんとかいいつつしっかり食べてるじゃない。

って

[格] {撥音のあとでは「て」となることもある。くだけたスタイルの話しことば}*引用の格助詞「と」と同じものはこれに含まれる。

早く帰っておいでっていって下さい。(引用の格助詞「と」と同じ。)

なんですって?(引用の格助詞から転じたもの)

それはあなたを大事にするってことよ。

男っていうものは、どうしてこうなのでしょう。

[係] 別れた後ってそうらわ。

なぜってそんな気がするの。

て(で)

[接] {完了の助動詞「つ」の連用形が転義し助詞化したものという。活用語の連用形につく。動詞の否定形および形容詞には、「って」の形で行くこともある。また、ガ行イ音便および撥音便の動詞には「で」の形で行く}

赤ちゃんの手ってちっちゃくってもみじのよう。

罪を憎んで人を憎まず。

で

[格] {格助詞「にて」がつづまったもの。体言または体言あつかいのものにつく}

わたしはこれで会社をやめました。

それで結構です。

ても(でも)

[接] {接続助詞「て」に係助詞「も」がついたもの。動詞・形容詞の連用形につく。イ音便の一部や撥音便に続く時は「でも」となる。形容詞につく時は「っても」となることがある}

いくら言ってもきかないんだから。

死んでも死にきれない。

でも

[副] {格助詞「で」に係助詞「も」が重なって一語となったもの。体言または体言あつかいのもの、および格助詞につく}

子供でも知っている。

どこへでも行く。

かまきり以外の何物でもない。

cf.以下の例は「で」接続助詞+「も」係助詞、と切る。

日本語でもいいですか?

と

[格] {二人の動作主、あるいは二つの対象が対となってはじめて成立する動作、あるいは関係・性状を表す用言を伴い}対等の関係にある対の一方をあげるのに用いる。

本物が偽物と入れ換えられたらしい

猫と遊んでた。

{「言う」「思う」「見る」「決める」「呼ぶ」等ある内容を表出あるいは認識する動詞を伴い、内容を引用し、それと示すのに用いる。引用の「と」と言われる。下の動詞は省略されることがある。}

いいと思うよ。

[並] {体言または体言あつかいのものにつく}

私の好きなのは、あんパンとクリームパンと...

[接] {多くは活用語の終止形につく。ただし、完了の助動詞「た」にはつかない}*{推量の助動詞「う」「まい」の連体形につけて、仮定条件を表す句をつくり}その仮定条件に拘束されることなくあることが遂行されるであろうことを強く表すのに用いる。

国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。

銀行振り込みにしていただけるとありがたいですが。

とう(等)

[副] ご質問等ございませんか。

とか

[並] {格助詞「と」に係助詞「か」がついて一語化したもの。種々の語につく}

京都とか奈良とかにいてみたい。

{主として「言う」「聞く」など情報の入り方に関する動詞を伴って、あるいは、それらが略された形で}他人から聞いたことであったり、自分ではっきり思い出せなかったりして、情報が不確かであることを表す。

網走とか申す所だそうです。

ところが

[接] {完了の助動詞「た」の終止形につく}*「が」は略されて「ところ」だけで用いることもある。

彼のためにと忠告したところが、かえって恨まれてしまった。

{動詞の終止形に直接につく。「はずのところが」の「はずの」がはしょられた形か}予定されていたこととたがう事柄が起こる事態を描くのに用いる。

御維新の騒ぎで殿様が甲府の町奉行になるところがだめになった話やら、<佐藤、田園の...>

どころか

[接] {活用語の終止形、あるいは、述部動詞の略された形で体言および体言あつかいの語につく}

きらいどころか大好きだ。

ところで

[接] {完了の助動詞「た」の終止形につく}

君がいったところでどうにもなるまい。

とも

[接] {接続助詞「と」に係助詞「も」がついてできたもの。文語・口語いずれも動詞、動詞型活用の助動詞の終止形、形容詞、形容詞型活用の助動詞の連用形につくが、文語では、鎌倉時代以後、動詞、動詞型活用の助動詞にはその連体形にもついている}

ちいさくともわが家だ。

[終] いいとも!

<な>

な

[終] {動詞および受身・使役の助動詞「(ら)れる」「(さ)せる」などの終止形につく}{補助動詞「なさる」の命令形「なさい」が卑俗なことばづかいで略されてできた形かとも。男性用語としては、動詞あるいは動詞に受身・使役の助動詞がついた形の連用形に、女性用語としては、それらに接頭辞「お」が冠された形につく}{敬語表現の命令形「ください」「なさい」「いらっしゃい」などにつく}{文の終止する形につく}{文語では形容動詞以外の活用語の未然形につく}

泣くなよ。

なあ

[終] 「な」{文の終止する形につく}ときの強く詠嘆のこめられた形。

やっぱり田舎はいいなあ。

ながら

[接] {名詞、副詞、形容詞・形容動詞の語幹、形容詞の終止形、動詞あるいは動詞型活用
の助動詞の連用形などにつく}

ごはんを食べながら、マンガを読むのはやめなさい。

残念ながら出席していただけないと連絡をうけました。

など

[副] {いろいろな語につく}

なにか質問などございましたらどうぞ。

これなどいかがですか。

なら

[接] {指定の助動詞「だ」の仮定形。体言およびそれに準じるものにつく。また、動詞・
形容詞・助動詞(「う」「よう」「まい」「そうだ」「ようだ」を除く)の終止形にもつく。あと
に接続助詞「ば」をつけた「ならば」の形で用いられるが、また、「なら」という単独の形で
現れることも多い}

鳴かぬなら鳴かせてみようホトトギス

なり

[副] {文語の指定の助動詞「なり」から転じたもの。「なりと」「など」の形でも用いら
れる。体言または体言あつかいのもの、および格助詞につく}

どこへなり勝手に行くがいいさ。

[並] お父さんなりお母さんなりにそう伝えといてちょうだい。

[接] {動詞あるいは助動詞の終止形につく}

家に帰るなりどこかに遊びに行ってしまった。

なんて

[副] {体言、あるいは体言に相当するものにつく}

まさか本当にくれるなんて思ってなかった。

に

[格] {体言または体言あつかいのものにつく}

ニューヨークに行こう。

何しに来た。

ね

[終] {文の終止部が男性語と女性語によって異なる形をとる場合には、この助詞のつきうる形は異なってくる。たとえば、活用語にはその終止形につくが、男性語では直接につき女性語では終助詞「わ」を介してつく。ただし、指定の助動詞「だ」、あるいは形容動詞につく場合は、女性語では「だわ」を略して体言・準体助詞「の」、あるいは形容動詞語幹に直接つくこともある。また、終助詞「か」についての形は男性語に限られるが、「かねえ」は年配の女性も用いる。

あなたって本当に親切ね。

ねえ

[終] →「ね」

あと二十年若かったらねえ。

の

[格] {体言または体言扱いのものにつく}

私の彼は左利き。

[準] {体言、あるいは、ごくまれに体言に格助詞「の」がついた形につく。ついた形全体で体言あつかいになる}{連体形で終わる語句、あるいは連体詞につく。ついた形全体が体言あつかいになる}

これはぼくのだ。

[並] {体言または体言あつかいのものつく}

喜んだの、喜ばないの。

[終] {準体助詞「の」から転じたもの。活用語の連体形につく。主に女性あるいは子供の用いる語}

どこから来たの。

(このように単独で表われる場合のみ終助詞。「東京から来たのか。」「大阪から来たんです。」のように「のか」「のです」「のだ」という連鎖の中では準体助詞である。)

ので

[接] {準体助詞「の」に、指定の助動詞「だ」の連用形「で」がついて一語化したもの。また、格助詞「で」がついたものとも。活用語の連体形で終わる文につく}

私は足が速いので綱引きがいいです。

cf.彼はどこかに人と親しみ難い処を持っているに違いない。それは親しい友達の少ないので分かる。

→ の / で
準助 格助

のに

[接] {文語の接続助詞「に」の上に準体助詞「の」が挿入されてできた形か。活用語の連体形で終わる文に、また形容動詞、指定の助動詞「だ」の終止形で終わる文にもつく}

せっかく行ったのにお休みだった。

のみ

[副] {「の身」が原義という。種々の語のにつく}

問題はそれのみではない。

<は>

は

[係] {発音ワ。いろいろな語あるいは活用語の連用形につく}

本日は晴天なり。

ば

[接] {口語では仮定形につく}&文語では未然形の時とい然形の時がある}

もし生まれ変わったならば何になりたいですか。

ばかり

[副] {動詞「はかる」の名詞形「はかり」からの転。口語のくだけた言い方では、用法によっては、「ばっかり」「ばかし」「ばっかし」とも。種々の語につく}

あの犬は空ばかり見ている。

私は今年入学したばかりです。

へ

[格] {発音はエ。体言について連用修飾語をつくる。格助詞「の」が下にくると、「へ」全体が体言あつかいになり、「への」の形で体言を修飾することがある}

まっすぐいって右へまがれば会議場ですよ。

ほど

[副] {「程度」の意の名詞が助詞化したもの。助詞化してもきわめて名詞的。体言および活用語の連体形につく}

見れば見るほど似ている。

二週間ほどたったある日のこと。

<ま>

まで

[格] {体言、あるいは、「時」という語が省略された形で動詞の連体形につく}{体言について}

大阪までどのくらいかかりますか。

[副] {主として体言につく。また、「ほど」が省略された形で活用語の連体形につく}

あなたまでそんなこと言うなんて。

も

[係] {いろいろな語や活用形につく}

わしもそう思う。

もの(もん)

[終] {形容名詞「もの」が文末に用いられて助詞化したもの。主として女性の用語。活用語の終止形につく。「もん」ともなる}

涙がでちゃう、だって女の子だもん。

ものか(もんか)

[終] {形容名詞「もの」に感動を表す助詞「か」のついた形が文末に用いられて助詞化したもの。活用語の連体形につく}

負けるもんか。

もので(もんで)

[接] {形容名詞「もの」に格助詞「で」がついて一語の助詞化したもの。本来は活用語の連体形につく}

なにしろ大阪は初めてなものでよく分かりません。

ものなら(もんなら)

[接] {形容名詞「もの」に指定の助動詞「だ」の仮定形「なら」がついて一語の助詞化したもの}{原則として可能を表す動詞あるいは助動詞の連体形につく}{意志・推量を表す助動詞「う」「よう」の連体形につく}

できるものならもう一度チャレンジしたいと思っているのですが。

ものの(もんの)

[接] {形容名詞「もの」に助詞「の」がついて一語の助詞化したもの。活用語の連体形につく}

やりますとは言ってみたものの、あまり自信はないんだ。

ものを

[接] {形容名詞「もの」に助詞「を」がついて一語化したもの。活用語の連体形につく}

そのまま逃げだせばよいものを、立ち向かって行くからこういう事になるんだよ。

<や>

や

[並] {体言または準体助詞「の」につく}

ここからだと山や川が見渡せてとても気持ちがいい。

[終] 口語{体言につく}{勧誘を表す助動詞「う」の終止形にもつく}{動詞の否定形、あるいは感情を表す形容詞につく}文語{体言あるいは活用語の終止形につく}{活用語の命令形につく}

ばあさんや、みかんを一つどうだい。

やら

[副] {終助詞の用法から転じたもの。種々の語につく}

どこへやら行ってしまった。

[並] {名詞、活用語の連体形、準体助詞「の」などにつく}

赤いのやら青いのやらたくさんある。

[終] {「にやあらん」の形が「やらん」「やらう」と転じ、さらにつづまったもの}

空の雲どこまで流れて行くのやら。

よ

[終] 文語{体言につく}口語{活用語には終止形・命令形につくが、終止形につく場合、男性語では直接につき、女性語では終助詞「わ」や「こと」を介してつく。ただし、指定の助動詞「だ」あるいは形容動詞につく場合は、女性語では「だわ」「だこと」を略して体言、準体助詞「の」、あるいは形容動詞語幹に直接つくこともある。命令形に直接つく形は一般に男性語に限られるが、「なさい」「いらっしゃい」などの丁寧な命令表現についての形は女性も用いる。また、終助詞「か」あるいは禁止の終助詞「な」についての形は男性語に限られる。親しい間柄でのくだけた会話で用いる}

もしもしかめよ、かめさんよ

その言葉を忘れるなよ。

より

[格] {体言または体言あつかいのものにつく}{活用語の連体形につく。口語の文章語では「より早く」の形で用いられる}

青より白のほうが好き。

<わ>

わ

[終] {文末にもちいられた係助詞「は」から転じたもの。歴史的かな使いは「は」とも。活用語の終止形につく}

そんなことだと思ったわ。

を

[格] {体言または体言あつかいのものにつく}

私を信じなさい。

	格助詞	準体助詞	係助詞	副助詞	並列助詞	接続助詞	終助詞
体言、 体言扱いの ものに	が から で って と に の へ ま より を	の	ったら って は も	か きり くらい (ぐらい) こそ さえ しか ず つ す ら だ け だ っ て で も と う な ど な り な ん て の み ば か り ほ ど ま で ら	たの (だの) と と か の や ら	どこ か な ら	か か し ら わ ね ね え さ や よ
活用語 未然形							
活用語 連用形	に		は も	さ え し か	た り (だ り)	た っ て (だ っ て) た ら た り (だ り) つ つ て (で) て も (で も) と も な が ら	な

	格助詞	準体助詞	係助詞	副助詞	並列助詞	接続助詞	終助詞
活用形 終止形*1	と って が			か やら なんて	とか なり	が から けど(も) けれど(も) し と ところが どころか ところで とも ながら なら なり のに	こと ね ねえ させ ぞ つけ とも なあ もの (もん) や よ やら わか かしら
活用語 連体形*1	まで より が に	の		きり くらい (ぐらい) しか だけ のみ ばかり ほど まで	やら	ので のに もので (もんで) ものなら (もんなら) ものの (もんの) ものを	の ものか (もんか)
活用語 仮定形						ば	
活用語 命令形	と って				とか		な よ

	格助詞	準体助詞	係助詞	副助詞	並列助詞	接続助詞	終助詞
活用語 語幹形						ながら (名詞 副詞 形容詞 形容名詞)	

*1 終止形に接続するか、連体形に接続するかの見分け方は「だ」の活用で考えるとよい。(「だ」は終止形と連体形の形が違う。)

☆付録3 <活用表>

動詞

種類	行名	例語	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
五段活用	カ行	書く	か	か、こ	き、い	く	く	け	け
下一段活用	カ行	受ける	う	け	け	ける	ける	けれ	けろ けよ
上一段活用	カ行	起きる	お	き	き	きる	きる	きれ	きろ きよ
カ行 変格活用	カ行	来る		こ	き	くる	くる	くれ	こい
サ行 変格活用	サ行	する		しせざ	し	する	する	すれ	しろ せよ
特殊		為さる	なさ	ら、ろ	い	る	る	れ	い
"		いらつ しゃる	いらつ しゃ	ら、ろ	い	る	る	れ	い
"		仰る	おつ しゃ	ら、ろ	い	る	る	れ	い
"		下さる	くださ	ら、ろ	い	る	る	れ	い

動詞

種類	行名	例語	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形
"		御座います	ござい	ませ ましよ	まし	ます	ます	ますれ	ませ まし
"		くれる	く	れ	れ	れる	れる	れれ	れ
文語サ変	サ行	す		せ	し	す	する	すれ	せよ

形容詞

種類	行名	例語	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	假定形	命令形
ク活用		美しい	美し	かろ	かつく	い	い	けれ	○
特殊		よい	よ よさ	かろ	かつく	い	い	けれ	○
”		ない	な なさ	かろ	かつく	い	い	けれ	○

助動詞(文語)(参考:その他(8))

意味	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	活用型	接続
使役・尊敬	す	せ	せ	す	する	すれ	せよ	下一段型	未然形
"	さす	させ	させ	さす	さする	さすれ	させよ	"	未然形
"	しむ	しめ	しめ	しむ	しむる	しむれ	しめよ	"	未然形
受身・可能 自発・尊敬	る	れ	れ	る	るる	るれ	れよ	"	未然形
"	らる	られ	られ	らる	らるる	らるれ	られよ	"	未然形
完了・確認	つ	て	て	つ	つる	つれ	てよ	"	連用形
"	ぬ	な	に	ぬ	ぬる	ぬれ	ね	ナ変型	連用形
完了・存続	たり	たら	たり	たり	たる	たれ	たれ	ラ変型	連用形
"	り	ら	り	り	る	れ	れ	"	已然形又は命令形(四段)、未然形(サ変)
過去(回想)・ 詠嘆	けり	(けら)	○	けり	ける	けれ	○	"	連用形

助動詞(文語)(参考:その他(8))

意味	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	活用型	接続
推量	めり	○	(めり)	めり	める	めれ	○	〃	終止形(ラ変以外・助動詞) 連体形(ラ変・形容詞・助動詞)
伝聞・推定	なり	○	(なり)	なり	なる	なれ	○	〃	終止形(ラ変以外・助動詞) 連体形(ラ変・形容詞・助動詞)
丁寧	侍り	侍ら	侍り	侍り	侍る	侍れ	侍れ	〃	連用形
〃	候ふ	候は	候ひ	候ふ	候ふ	候へ	候へ	四段型	連用形
推量・意志	んず <むず>	○	○	んず <むず>	んずる <むずる>	んずれ <むずれ>	○	サ変型	未然形
推量・意志・可能・当然・命令	べし	べく べから	べく べかり	べし	べき べかる	べけれ	○	形容詞型 ク活用	終止形(ラ変以外・助動詞) 連体形(ラ変・形容詞・助動詞)

助動詞(文語)(参考:その他(8))

意味	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	活用型	接続
希望	たし	たから たから	たか たかり	たし	たき	たけれ	○	〃	連用形
比況・例示	ごとし	ごとく	ごとく	ごとし	ごとき	○	○	〃	連体形 連体 形+「が」。 名詞+「の」
希望	まほし	まほしく まほし から	まほしく まほし かり	まほし	まほし まほし かる	まほし まほし けれ	○	形容詞型シク 活用	未然形
打消の推量打 消の意志・禁止	まじ	まじく まじか ら	まじく まじか り	まじ	まじか まじか る	まじけ れ	○	〃	終止形(ラ変以 外・助動詞) 連体形(ラ変・ 形容詞・助動 詞)
指定	なり	なら	なりに	なり	なる	なれ	なれ	形容動詞型 ナリ活用型	名詞・連体形 助詞
比況・例示	ごとく なり	ごとく なら	ごとく なり ごとく に	ごとく なり	ごとく なる	ごとく なれ	ごとく なれ	〃	連体形 連体 形+「が」。 名詞+「の」

助動詞(文語)(参考:その他(8))

意味	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	活用型	接続
指定	たり	たら	たり と	たり	たる	たれ	たれ	形容動詞型 タリ活用型	名詞
打消	ず	(な) ず ざら	(に) ず ざり	ず (ざり)	ぬ ざる	ね ざれ	ざれ	未然形	特殊型
反実仮想 予想	まし	(ませ)	○	まし	まし	ましか	○	〃	〃
過去(回想)	き	(せ)	○	き	し	しか	○	連用形	〃
推量・意志	ん<む>	○	○	ん <む>	ん <む>	め	○	未然形	〃
過去の推量 (回想的)	けん <けむ>	○	○	けん <けむ>	けん <けむ>	けめ	○	連用形	〃
現在の推量 想像	らん <らむ>	○	○	らん <らむ>	らん <らむ>	らめ	○	終止形(ラ変以 外・助動詞) 連体形(ラ変・ 形容詞・助動 詞)	〃
推定	らし	○	○	らし	らし (らしき)	らし	○	〃	無変化型

助動詞(文語)(参考:その他(8))

意味	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	活用型	接続
打消の推量 打消の意志	じ	○	○	じ	(じ)	(じ)	○	未然形	無変化型

助動詞

意味	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	活用型	接続
使役	せる	せ	せ	せる	せる	せれ	せろ せよ	下一段動詞型	五、サ 未然形
〃	させる	させ	させ	させる	させる	させれ	させろ させよ	〃	一、カ 未然形
〃	す	さそ	し	す	す	(せ)	(せ)	五段動詞型	五、サ 未然形
〃	さす	さす さそ	さし	さす	さす	(させ)	(させ)	〃	一、カ 未然形
受身・可能 自発・尊敬	れる	れ	れ	れる	れる	れれ	れろ れよ	〃	五、サ 未然形
〃	られる	られ	られ	られる	られる	られれ	られろ られよ	〃	一、カ 未然形
打消	ない	なかる	なかつ なく	ない	ない	なけれ	○	形容詞型	未然形
希望	たい	たかる	たかつ たく	たい	たい	たけれ	○	〃	連用形
推定	らしい	○	らしかつ らしく	らしい	らしい	○	○	〃	終止形

助動詞

意味	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	活用型	接続
断定	だ	だろ	だっ で	だ	(な)	なら	○	ダ型	名詞 助詞 終止形
「形容動詞」 を構成	だ	だろ	だっ で に	だ	な	なら	○	〃	形容名詞
様態	そうだ	そうだろ	そうだっ そう そうに	そうだ	そうな	そうなら	○	〃	連用形 形容詞語幹
伝聞	そうだ	○	そう で	そうだ	○	○	○	〃	終止形
推量	ようだ	ようだろ	ようだっ よう ように	ようだ	ような	ようなら	○	〃	連体形
比喩・例示	みたいだ	みたいだろ	みたいだっ みたい みたいに	みたいだ	みたいな	みたいなら	○	〃	連体形
ていねい	ます	ませ ましょ	まし	ます	ます	ますれ	ませ まし	特殊な活用	連用形

助動詞

意味	基本形	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	活用型	接続
ていねいな断定	です	でしよ	でし	です	(です)	○	○	〃	名詞 助詞 終止形
「形容動詞」を構成(ていねい)	です	でしよ	でし	です	(です)	○	○	〃	形容名詞
様態(ていねい)	そうです	そうですしよ	そうですし	そうです	(そうです)	○	○	〃	連用形 形容詞語幹
伝聞(ていねい)	そうです	そうですしよ	そうですし	そうです	(そうです)	○	○	〃	終止形
推量(ていねい)	ようです	ようですしよ	ようですし	ようです	(ようです)	○	○	〃	連体形
比喩・例示(ていねい)	みたいです	みたいですしよ	みたいですし	みたいです	(みたいです)	○	○	〃	連体形
過去・完了・存在	た	たろ	○	た	た	○	○	〃	連用形
ぬ(ん)	ぬ(ん)	○	ず	ぬ(ん)	ぬ(ん)	ね	○	〃	未然形
推量・意志	う	○	○	う	(う)	○	○	語形変化なし	未然形
〃	よう	○	○	よう	(よう)	○	○	〃	未然形
打消の推量	まい	○	○	まい	(まい)	○	○	〃	終止形

☆付録4 <文節単位について>

A4.1 文節とは何か?

「文節とは何か」について『中学生の国文法の実力』によると以下のように説明されている。

文をくみだしていることばを、意味がわかる範囲内で、できるだけこまかくくぎった一つ一つ。…(途中略)…文を文節に分けるときは、できるだけたくさん「ね」をいれてみるとよい。

しかし、「ね」を挿入できる箇所というのは曖昧であり、判断に個人差が生じる可能性がある。そこで、ここでは形態素解析の結果を利用して、「自立語1個を中心に文節は構成される」と考えることとする。

<基本ルール> 接頭辞*+自立語+接尾辞*+付属語*

ここで、

①「*」は0個以上複数の連続を許すことを表している。

②自立語とは以下の品詞を指す。

名詞(固有名詞,普通名詞,サ変名詞,形容名詞,数詞,代名詞)

本動詞

形容詞

副詞

連体詞

接続詞

感動詞

間投詞

③付属語とは以下の品詞を指す。

補助動詞

助動詞

助詞(格助詞,係助詞,副助詞,並立助詞,接続助詞,終助詞,準体助詞)

<基本ルールに対する例外>

1.自立語が0個という例外

(1)接頭辞+接尾辞で1つの自立語扱いとなるもの。

(例) 幾 日
何 人

2.自立語が2個以上という例外

(2)複数の単語(特に普名詞)の連続が複合名詞として1自立語扱いとなるもの。

(例) 口座 番号
計算 機 工学

A4.2 文節プログラムの出力と修正

さて、文節プログラムはA4.1の要求を機械的に処理し、以下の3通りの組合せを文節単位とみなすのである。

- 1.接頭辞*+自立語+接尾辞*+付属語*
- 2.接頭辞*+接尾辞*+付属語*
- 3.接頭辞*+普通名詞*+接尾辞*+付属語*

しかし、これでは完全とはいえない。何故なら、

(1)複合名詞相当語は普通名詞連続のみではない。

→ 普通名詞連続以外の複合名詞相当語は、(複数の文節になっているものを)1つの文節にまとめなくてはならない。

(2)複合名詞相当語でない(偶然の)普通名詞連続がある。

→ このときには、1つの文節になっているものを2つ以上の文節に分割しなくてはならない

そこで、人手による修正を行う。修正内容については各々次節(A4.3)に例をあげて説明する。

A4.3 文節プログラムの出力を修正するもの

この章では、文節プログラムの出力に対する修正内容について説明する。この章の例においては、形態素区切りを空白で示し文節区切りを改行で示す。

A4.3.1 複数の文節になっているものを1つにまとめるもの。

(1)数詞を含む複合名詞相当語

★典型的な例

(「数詞+接尾辞」+名詞など)

☆お値段のほうはだいたい 5万円前後 になろうかと存じます。

5万	円	前後	に
数詞	接尾	普名	格助

☆はい、プログラムは厚さ 7mm程度 のパンフレット状のものです。

7	mm	程度	の
数詞	記号	普名	格助

☆1小間の予約料金は10万円となっているので、2小間でも3小間でも予約は可能です。

2	小	間	でも
数詞	接頭	普名	副助

3	小	間	でも
数詞	接頭	普名	副助

☆3カ月後のそちらからの次のサーキュラーが来るのを待つことにします。

3	カ	月	後	の
数詞	接尾	接尾	普名	格助

★典型的な例

(「接頭辞+数詞」+名詞など)

☆先生の発表は会議3日目の29日 第一分科会の10時から11時までです。

第	一	分科	会	の
接頭	数詞	普名	普名	格助

☆実は、会議の 第一アナウンスメント を見ていたのですが、学会員としての登録料の割引に関する条項がないようなのですが。

第	一	アナウンスメント	を
接頭	数詞	普名	格助

☆第一セッションの知能ロボットに関しては、最先端技術に関する発表が研究者より行なわれます。

第	一	セッション	の
接頭	数詞	普名	格助

★少し紛らわしい例
(修正が必要)

☆登録料は、おひとり ¥ 50,000となっております。

お 接頭	ひと 数詞	り 接尾
¥ 記号	50,000 数詞	と 格助

★難しい例

(これらは複合名詞とするのには抵抗があるかもしれないが、ここでは「複合名詞的」という条件はかなり長単位で考えることとする。)

☆はい、私どもが準備しておりました会場のうち、一番大きなところで300人収容の松の間という部屋が最大だったのですが、まだ450人収容の鳳凰の間という部屋がおりますので、至急その手配を致したいと思います。

300 数詞	人 接尾	収容 普名	の 格助
450 数詞	人 接尾	収容 普名	の 格助

★ちょっと難しい例

(次の例のように「4、50」が「4」と「50」ではなく、全体で「40」から「50」くらいの数を表していると考えられるときは1文節にする。「二、三」も同じだが、「第二、第三セッション」は「第二セッションと第三セッション」の意味なので文節を分ける。)

☆4、50名収容の部屋でしたら、いくつか用意できると思います。

4 数詞	、 記号	50 数詞	名 接尾
収容 普名	の 格助		

☆ホテルについて二、三お伺いしてよろしいでしょうか？

二 数詞	、 記号	三 数詞
---------	---------	---------

☆第二、第三セッションのエキスパートシステム、画像理解については企業の開発担当者を中心に発表されます。

第 接頭	二 数詞	、 記号		
第 接頭	三 数詞	セッション 普名	の 格助	

★その他

☆約500名の参加者がありました。

約
副 詞

500 名 の
数詞 接尾 格助

(2)数詞を含まない複合名詞相当語

★典型的な例

☆8月20日に見本市出展説明会を開催し小間割等を発表します。

見本 市 出 展 説明 会 を
普名 普名 普名 接尾 普名 普名 格助

☆同封されている申し込み書に必要な事項を記入しA T Rの管理する国際コンピューター会議の口座に出展料を振込下さい。

出 展 料 を
普名 接尾 普名 格助

☆予定参加者数は275人から325人です。

予定 参加 者 数 は
普名 普名 接尾 普名 係助

★かなり長くても一文節にする例

☆それに出国申請書作成に際し、私がこの会議の正式な参加者であるという事務局発行の証明書が必要となります。

出国 申請 書 作成 に
普名 普名 接尾 普名 格助

★サ変名詞の時もある。

☆自己紹介します。

自己 紹介 し ます 。
普名 サ名 補動 助動 記号

★ちょっと考えてしまう例

☆開催時期は会期中半ばを考えているのですが、それでいかがでしょうか。

会期 中 半ば を
普名 接尾 普名 格助

☆コピー機以外に何か準備するものはありませんでしょうか。

コピー 機 以外 に
普名 接尾 普名 格助

★その他(修正しなくてもよい例)

☆では、サテライトシンポジウムで海外のスピーカーと企画委員会スタッフとの親睦をはかろうというこちらの希望は御存知ですね。

企画 委員 会 スタッフ と の
普名 普名 普名 普名 並助 格助

☆会議当日お会いできることを楽しみにしております。

会議 当日
普名 普名

☆まず、講演についてですがこの会議はA I学会と情報処理学会の後援をもらっていますので、その両学会のいずれかに会員となっておられる方しか講演発表はできません。

両 学会 の
普名 普名 格助

☆一応今のところは各分科会のテーマしか決定しておりません。

各 分科 会 の
接頭 普名 普名 格助

注意! 代名詞と連体詞は少々直感にあわなくても複合名詞扱いにはしない。

☆また、私自身でコピーを持っておく必要がありますので、こちらにも一部お送り願えませんでしょうか。

私
代名詞

自身 で
普名 格助

☆はい、当事務局としましてできる限りお手伝いしたいと思っております。

当
連体

事務 局 と
普名 普名 格助

☆それ以外の日時は少しむずかしいかと思えます。

それ
代名詞

以外 の
普名 格助

(3)特殊な副詞

★名詞的に後ろの名詞と直接つながっている例

☆なるべく九月一杯にお送りしたいと思います。

九月	一杯	に
普名	副 詞	格助

★名詞的に前の名詞と直接つながっている例

☆もちろん、料金は、その場合、別途料金になります。

別途	料金	に
副 詞	普名	格助

A4.3.2 1つの文節になっているものを2つ以上に分割するもの。

(1)複合名詞相当語でない(偶然の)普通名詞連続

★典型的な例 その1

☆私のセクションが、この展示の担当になっていますが、アレンジを、今事務局のもとで活動されているATR
をお願いしたいと思います。

今
普名

事務局 の
普名 普名 格助

☆先生には当初招待講演の方引き受けて頂いておりましたが残念ながら出席して頂けないと連絡をうけました。

当初
普名

招待 講演 の
普名 普名 格助

☆他に問題がなければ、再度最終フロープランを検討致しまして先生の方にお送りさせていただきます。

再度
普名

最終 フロープラン を
普名 普名 格助

★典型的な例 その2

☆お忙しいところ本当にありがとうございました。

お 忙しい
接頭 形容詞

ところ
普名

本当 に
普名 格助

☆ファーストアナウンスメントについているリプライカードに必要事項を記入の上事務局までお送り下さい。

記入 の
普名 格助

上
普名

事務局 局 まで
普名 普名 格助

☆お互い話も合うのではないかと思ひ、同会議開催の折、非公式な懇親会を開くことになりました。

お 互い
接頭 普名

話 も
普名 係助

合う の で は ない か と
本動 準助 助動 係助 助動 終助 格助

★少し紛らわしい例

☆その他3会場同時進行のセッションが行なわれます。

その
連体

他
普名

3 会場 同時 進行 の
数詞 普名 普名 普名 格助

セッション が
普名 格助

行なわ れ ます 。
本動 助動 助動 記号

索引

注意

☆1つの索引語に対して参照ページが複数あるときにはページ番号を「,」で区切った。

☆1つの索引語に対して参照ページが複数連続しているときにページ番号の範囲を「~」で示した。

☆連語を索引語とする場合は「/」で区切っている。(但し、吉本「日本語品詞の分類」からの引用は区切っていない。)

(例) 笑い/も/し/ない … 21(動詞)

オ会イイタシマス … 20(動詞)

地の文を索引語とした例

吉本「日本語品詞の分類」より

の引用を索引語とした例

☆基本的には、各索引語の参照ページがその語の品詞を示しているが、以下の3つの例外がある。

1. 「その品詞でないまぎらわしい例」を索引語として扱った場合は[]で囲んで示した。

(例) [(生息)/域] … 74(接尾)

「域」は接尾辞ではない。(普通名詞である。)

2. 索引語の前後に他の語を接続の参考例として載せた場合は、参考部分を()で囲んで区別した。

(例) [(生息)/域] … 74(接尾)

ここで問題となっているのは「生息」ではなく「域」である。(よって索引語自身も「セ」ではなく「イ」の項にある。)

3. 連語の索引語でどの部分が問題となっているかが明らかな場合は、()による参考部分の区別をしなかった。また、吉本「日本語品詞の分類」からの引用は上にも書いたように区切っていない。

(例) アメリカ/ドル … 9(名詞)

アメリカもドルも名詞(固有名詞及び普通名詞)である。

オ会イイタシマス … 20(動詞)

	[A]		アルイハ〔或ハ〕	… 43(接続)
			あれ〔彼〕	… 80(其他)
ATR		… 2(名詞)	アレ	… 12(名詞)
	[U]		アワセル	… 21(動詞)
us\$100		… 84(其他)	アンナ	… 39(連体)
usドル		… 10(名詞)	イイエ	… 48(感動)
[どう / (いっ / た)]		… 39(連体)	イエ	… 48(感動)
	[あ]		[(子育て)/ <u>以外</u>]	… 77(接尾)
			[(生息)/ <u>域</u>]	… 77(接尾)
ア		… 46(間投)	イク	… 21(動詞)
アア		… 48(感動)	異形態	… 51(助動)
ああ〔ああ〕		… 80(其他)	いけ / ない	… 52(助動)
アー		… 46(間投)	致す	… 4(名詞)
愛スル		… 18(動詞)	イタダク	… 21(動詞)
アウ		… 21(動詞)	一	… 9(名詞)
アガル		… 21(動詞)	(見本)/市	… 77(接尾)
アグネル		… 21(動詞)	一 / 時間	… 9(名詞)
アグム		… 21(動詞)	一 / 箇 / 月	… 9(名詞)
アゲル		… 21(動詞)	一 / 箇 / 所	… 9(名詞)
アソコ		… 12(名詞)	一向	… 35(副詞)
あそこ〔彼処〕		… 80(其他)	一 / 週 / 間	… 9(名詞)
あちら〔彼方〕		… 80(其他)	イッタイ〔一体〕	… 35(副詞)
アチラ		… 12(名詞)	[(一等)/ <u>地</u>]	… 77(接尾)
アッ		… 48(感動)	イヤ	… 48(感動)
(先生)/宛		… 77(接尾)	いらっしゃる	… 18(動詞)
あの〔彼〕		… 80(其他)	イル	… 21(動詞)
アノ〔彼〕		… 39(連体)	居る	… 82(其他)
アノー		… 46(間投)	イレル	… 21(動詞)
アメリカ / ドル		… 10(名詞)	【いろいろ】	… 6(名詞)
アヤマル		… 21(動詞)	イワユル	… 39(連体)
アラユル		… 39(連体)	【 <u>右</u> / (旋回)]	… 71(接頭)
ありがとう / (ございます)		… 48(感動)	美シイ	… 31(形容)
アル		… 21(動詞)	ウル	… 21(動詞)
アル〔有ル、在ル〕		… 18(動詞)	ウン	… 48(感動)
アル〔或〕		… 39(連体)	エー	… 46(間投)
アル / (人)		… 39(連体)	エーット	… 46(間投)

(半年)/ <u>間</u>	… 77(接尾)	ゴ-〔御〕	… 71(接頭)
考え / は / し / た / が	… 22(動詞)	コウ	… 35(副詞)
感謝 / する	… 22(動詞)	[こう / (し / た)]	… 39(連体)
[<u>簡単ダ</u>]	… 31(形容)	こう〔こう〕	… 80(其他)
(コピー)/ <u>機</u>	… 77(接尾)	コール・フォー・ペーパー	… 14(名詞)
キット	… 35(副詞)	ココ	… 12(名詞)
キミ	… 12(名詞)	ここ〔此処〕	… 80(其他)
[(郵便)/ <u>局</u>]	… 77(接尾)	ございます	… 18(動詞), 82(其他)
キリ	… 63(助詞)	ござる	… 18(動詞)
キル	… 21(動詞)	(ブロック塀)/ <u>越し</u>	… 77(接尾)
[<u>キレイダ</u>]	… 31(形容)	コソ	… 63(助詞)
綺麗 / (な)	… 6(名詞)	こちら〔此方〕	… 80(其他)
着レル	… 18(動詞)	コチラ	… 12(名詞)
きわまりない	… 33(形容)	コト	… 68(助詞)
[<u>きわまりない</u>]	… 52(助動)	ゴト	… 63(助詞)
[(借入)/ <u>金</u>]	… 77(接尾)	ごと/(に)	… 64(助詞)
クダサイ	… 21(動詞)	コノ〔此〕	… 39(連体)
クダサル	… 21(動詞)	この〔此〕	… 80(其他)
くださる	… 18(動詞)	この/(ような)	… 39(連体)
下さる	… 82(其他)	五匹	… 9(名詞)
くらい	… 63(助詞)	コム	… 21(動詞)
クライ	… 63(助詞)	コメル	… 21(動詞)
グライ	… 63(助詞)	ごめん/(ね)	… 48(感動)
ぐらい	… 63(助詞)	ごめん下さい	… 48(感動)
クル	… 21(動詞)	ごめんなさい	… 48(感動)
クレ	… 21(動詞)	ご/覧	… 24(動詞)
クレル	… 21(動詞)	コレ	… 12(名詞)
くれる	… 18(動詞)	これ〔此〕	… 80(其他)
-君	… 74(接尾)	来レル	… 18(動詞)
(ビル)/ <u>群</u>	… 77(接尾)	コンナ	… 39(連体)
決シテ	… 35(副詞)	こんにちは	… 48(感動)
ケド(モ)	… 67(助詞)	コンニチハ	… 48(感動)
ケレド(モ)	… 67(助詞)		
ケレドモ	… 43(接続)		
源氏物語	… 2(名詞)		
[(四年)/ <u>後</u>]	… 77(接尾)		
		[さ]	
		サ	… 68(助詞), 74(接尾)
		(やさし)/さ	… 76(接尾)
		再/(確認)	… 71(接頭)

最/(先端)	… 71(接頭)	じゃ	… 67(助詞)
最終/アナウンスメント	… 14(名詞)	じゃあ	… 81(其他)
サエ	… 63(助詞)	[[論文要旨]/集]	… 77(接尾)
[(緩和)/策]	… 77(接尾)	[自由/(に)]	… 36(副詞)
サシアゲル	… 21(動詞)	10/27	… 84(其他)
さす	… 55(助動)	10:27	… 84(其他) ~ 85(其他)
サス	… 51(助動)	(強制収容)/所	… 77(接尾)
させる	… 55(助動)	(申込)/晝	… 77(接尾)
サセル	… 51(助動)	[(外務)/省]	… 77(接尾)
-冊	… 74(接尾)	(登録)/証	… 77(接尾)
[早急/(に)]	… 36(副詞)	[(会議)/場]	… 77(接尾)
早速	… 35(副詞)	(パンフレット)/状	… 77(接尾)
サット〔颯ト〕	… 35(副詞)	(育児)/上	… 77(接尾)
サテ	… 43(接続)	新/(治療)	… 71(接頭)
-サマ〔様〕	… 74(接尾)	新-	… 71(接頭)
更に	… 35(副詞)	信ズル	… 18(動詞)
される	… 19(動詞)	す	… 4(名詞), 55(助動)
-サン	… 74(接尾)	[(推測)/数]	… 77(接尾)
シ	… 67(助詞)	数/十/年	… 9(名詞)
-氏	… 74(接尾)	スギル	… 21(動詞)
シイテ〔強イテ〕	… 35(副詞)	すぐ/(に)	… 35(副詞)
シカ	… 63(助詞)	スコシ〔少シ〕	… 35(副詞)
シカシ〔併〕	… 43(接続)	スコシモ〔少シモ〕	… 35(副詞)
[しかたない]	… 52(助動)	スゴス	… 21(動詞)
仕方ない	… 33(形容)	ズツ	… 63(助詞)
時間的/(に)	… 6(名詞)	ズット	… 35(副詞)
[(私)/自身]	… 77(接尾)	スナワチ〔即、及、則〕	… 43(接続)
しだい	… 75(接尾)	す/べき	… 55(助動), 85(其他)
(でき)/しだい	… 75(接尾)	済みません	… 48(感動)
[(それ)/自体]	… 77(接尾)	スラ	… 63(助詞)
[(研究)/室]	… 77(接尾)	する	… 4(名詞), 22(動詞)
自動的/(に)	… 6(名詞)	スルト	… 43(接続)
自動翻訳電話研究所	… 2(名詞)	ゼ	… 68(助詞)
シブル	… 21(動詞)	(日本)/製	… 77(接尾)
自分	… 12(名詞)	-性	… 74(接尾)
(発表)/晝	… 77(接尾)	(時代)/性	… 77(接尾)

タラ	… 67(助詞)	デス	… 51(助動)
タリ	… 66(助詞)～67(助詞)	[です/が]	… 43(接続)
ダリ	… 66(助詞)～67(助詞)	[です/から]	… 43(接続)
タリル	… 21(動詞)	ては	… 69(助詞)
ダレ/カ	… 63(助詞)	デハ	… 43(接続)
小サナ	… 39(連体)	テモ	… 67(助詞)
チガウ	… 21(動詞)	でも	… 65(助詞)～66(助詞)
チガエル	… 21(動詞)	デモ	… 63(助詞), 67(助詞)
-チャン	… 74(接尾)	で/も	… 66(助詞)
(選挙運動)/中	… 77(接尾)	でもって	… 58(助詞)
(学校)/中	… 77(接尾)	デル	… 21(動詞)
チョウド	… 35(副詞)	(出)/展	… 77(接尾)
チョット	… 35(副詞), 46(間投)	ト	… 58(助詞), 66(助詞)～67(助詞)
[ついで/(に)]	… 36(副詞)	と/いい/ます	… 59(助詞)
(ライト)/付	… 77(接尾)	と/いう	… 59(助詞)
ツク	… 21(動詞)	トウ	… 63(助詞)
ツクス	… 21(動詞)	等	… 63(助詞)
ツケ	… 68(助詞)	[どう/(いう)]	… 39(連体)
(七日)/付	… 77(接尾)	どう〔どう〕	… 80(其他)
ツケル	… 21(動詞)	どう致しまして	… 48(感動)
ツタラ	… 62(助詞)	ドウカ	… 35(副詞)
ツツ	… 67(助詞)	[同時/(に)]	… 36(副詞)
ツツケル	… 21(動詞)	ドウシテ	… 35(副詞)
ツテ	… 58(助詞), 62(助詞)	ドウゾ	… 35(副詞)
ツポイ	… 74(接尾)	[堂々タル]	… 31(形容)
ツマリ	… 43(接続)	とう/(に)	… 36(副詞)
テ	… 67(助詞)	トオス	… 21(動詞)
で	… 43(接続)	(従来)/通り	… 77(接尾)
デ	… 46(間投), 58(助詞), 67(助詞)	(二)/通り	… 77(接尾)
で/ある	… 53(助動)	トカ	… 66(助詞)
で(ある)	… 53(助動)	ドコ	… 12(名詞)
データ通信部長	… 2(名詞)	どこ〔何処〕	… 80(其他)
[～的/ダ]	… 74(接尾)	トコロガ	… 67(助詞)
できる	… 4(名詞)	どころか	… 63(助詞)
で(ございます)	… 53(助動)	ドコロカ	… 67(助詞)
で/ございます	… 53(助動)	トコロデ〔所デ〕	… 43(接続)

トコロデ	… 67(助詞)	ながら	… 67(助詞)
として	… 59(助詞)	ナガラ	… 67(助詞)
と/し/まし/て	… 59(助詞)	なきゃ	… 81(其他)
ドチラ	… 12(名詞)	ナサイ	… 21(動詞)
どちら〔何方〕	… 80(其他)	なさる	… 4(名詞), 18(動詞), 23(動詞)
ドッコイショ	… 48(感動)	ナゼ〔何故〕	… 35(副詞)
ドノ〔何〕	… 39(連体)	ナゼ/カ	… 63(助詞)
どの〔何〕	… 80(其他)	ナド	… 63(助詞)
-殿	… 74(接尾)	涙する	… 22(動詞)
どの/(くらい)	… 39(連体)	(きれい)/なら	… 54(助動)
どの/ような	… 53(助動)	[[本]/なら]	… 54(助動)
どの/(ような)	… 39(連体)	[[できる]/なら]	… 54(助動)
(両言語)/共	… 77(接尾)	[なら]	… 54(助動)
トモ	… 67(助詞) ~ 68(助詞)	ナラ	… 67(助詞)
-トモ〔共〕	… 74(接尾)	ナリ	… 63(助詞), 66(助詞) ~ 67(助詞)
と/申し/ます	… 59(助詞)	ナレル	… 21(動詞)
トリ-〔取〕	… 71(接頭)	なんか	… 64(助詞)
どれ〔何〕	… 80(其他)	ナンカ	… 63(助詞)
ドレ	… 12(名詞)	ナンテ	… 63(助詞)
[とんでもない]	… 52(助動)	何/年	… 9(名詞)
どんだん/(と)	… 36(副詞)	ニ	… 58(助詞)
どんな	… 39(連体)	において	… 59(助詞)
ドンナ	… 39(連体)	に/おき/まし/て	… 59(助詞)
どんな/ふう/な	… 53(助動)	に/関し/て	… 59(助詞)
トンダ	… 39(連体)	に/関し/まし/て	… 59(助詞)
		に/関する	… 59(助詞)
	[な]	ニクイ〔難イ〕	… 74(接尾)
ナ	… 68(助詞)	[にくい]	… 32(形容)
ナア	… 68(助詞)	(わかり)/にくい	… 75(接尾)
[ない]	… 32(形容), 52(助動)	にくい	… 75(接尾)
ない	… 52(助動)	にしろ	… 58(助詞)
(会場)/内	… 77(接尾)	にせよ	… 58(助詞)
ナイ	… 51(助動)	に/対し/て	… 59(助詞)
ナイシハ〔及至ハ〕	… 43(接続)	について	… 59(助詞)
ないしは	… 44(接続)	に/つき/まし/て	… 59(助詞)
ナオ〔猶〕	… 43(接続)	にて	… 60(助詞)
ナオス	… 21(動詞)		

ヨウデス	… 51(助動)	六時	… 9(名詞)
[洋々タル]	… 31(形容)	論ずる	… 22(動詞)
よく/する	… 22(動詞)		
ヨモヤ	… 35(副詞)		
ヨリ	… 58(助詞)		
	[ら]		
-ラ〔等〕	… 74(接尾)		
ラシイ	… 51(助動), 74(接尾)		
ラレル	… 51(助動)		
[(家庭)/欄]	… 77(接尾)		
[(得票)/率]	… 77(接尾)		
[(登録)/料]	… 77(接尾)		
(原生)/林	… 77(接尾)		
(はなして)/る	… 81(其他)		
(機械)/類	… 77(接尾)		
			[わ]
		ワ	… 68(助詞)
		我が〔我〕	… 39(連体)
		ワスレル	… 21(動詞)
		ワタシ	… 12(名詞)
		ワタス	… 21(動詞)
		ワタル	… 21(動詞)
		笑い/も/し/ない	… 22(動詞)
		ヲ	… 58(助詞)
		をもって	… 58(助詞)
			[ん]
		ン	… 51(助動)